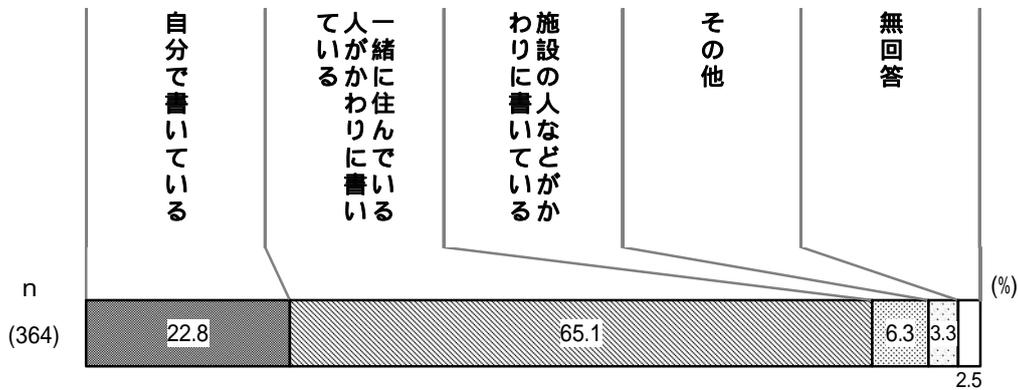


アンケート調査  
(知的障害者本人)

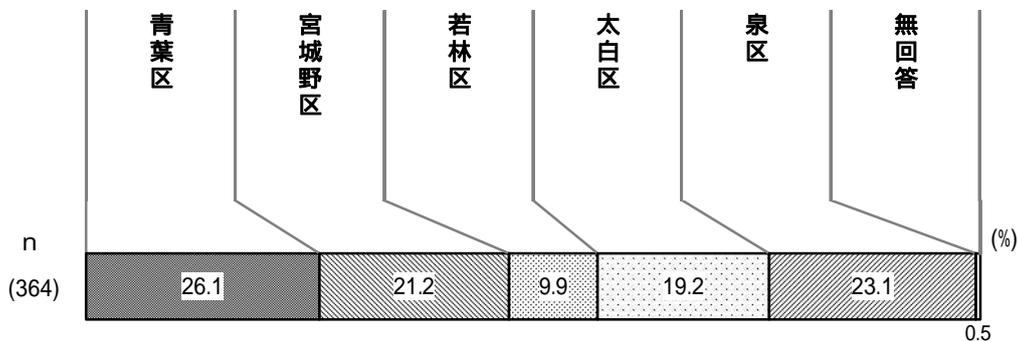
## 1 基本的な属性について

問1 この調査票をだれが書いていますか。( S A )



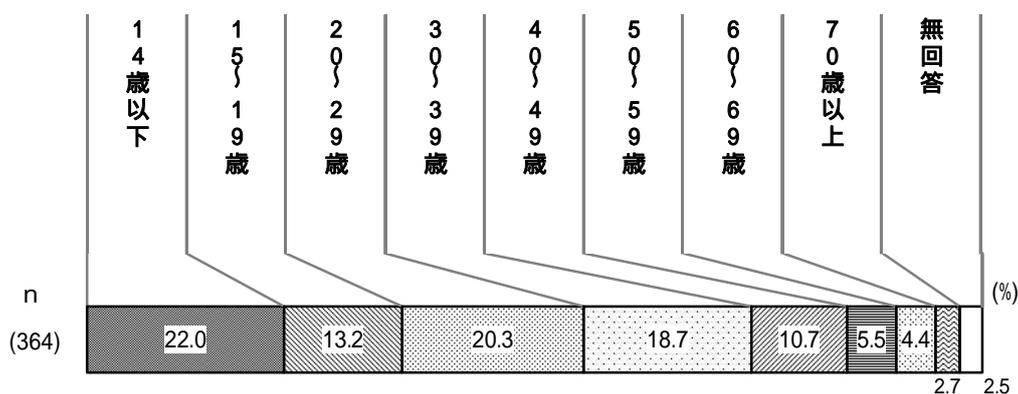
調査票の記入者については、「一緒に住んでいる人がかわりに書いている」(65.1%)が最も多く、以下「自分で書いている」(22.8%)、「施設の人などがかわりに書いている」(6.3%)となっている。

問2 あなたはどこの区に住んでいますか。( S A )



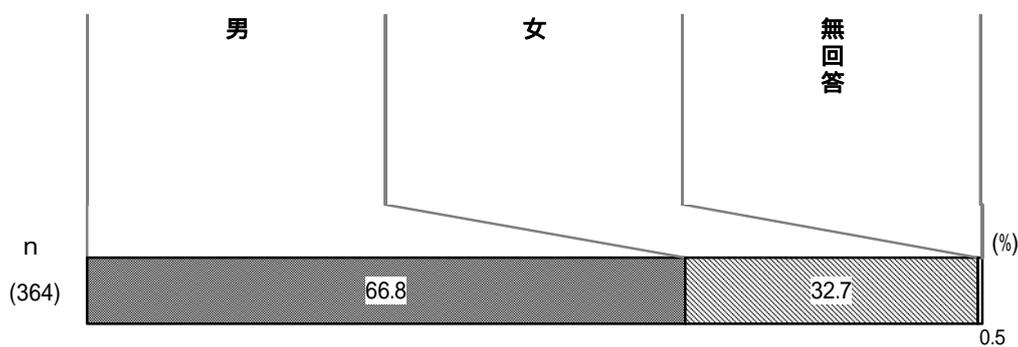
居住区については、「青葉区」(26.1%)が最も多く、以下「泉区」(23.1%)、「宮城野区」(21.2%)、「太白区」(19.2%)、「若林区」(9.9%)となっている。

問3 あなたは何歳ですか。(数値)



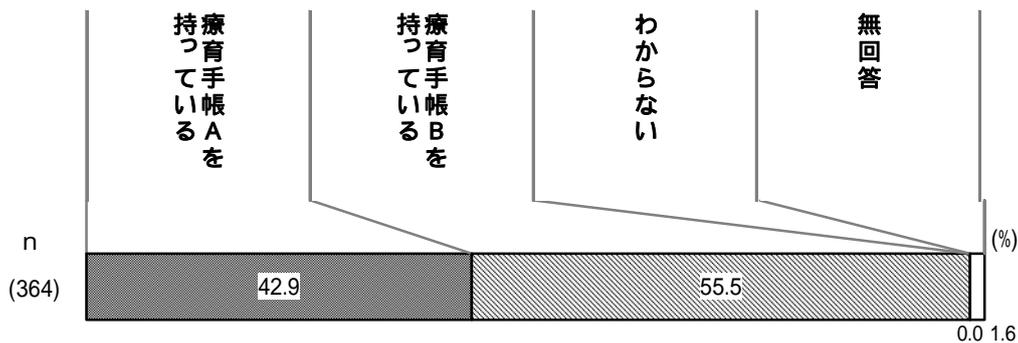
年齢については、「14歳以下」(22.0%)が最も多く、以下「20~29歳」(20.3%)、「30~39歳」(18.7%)、「15~19歳」(13.2%)、「40~49歳」(10.7%)となっている。

問4 あなたの性別は男、女のどちらですか。(SA)



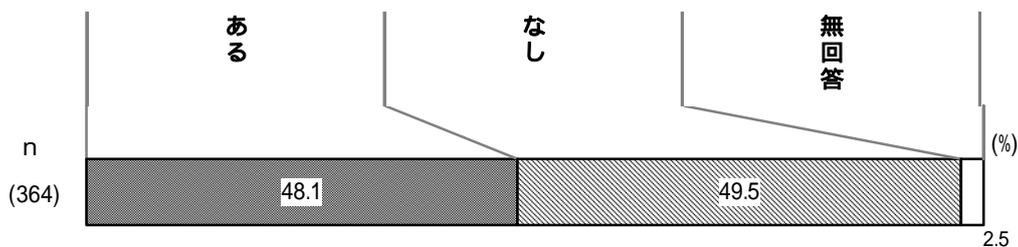
性別については、「男」が66.8%、「女」が32.7%となっている。

問5 あなたは療育手帳を持っていますか。( S A )



療育手帳の種類については、「療育手帳Bを持っている」人は55.5%、「療育手帳Aを持っている」人は42.9%となっている。

問6 あなたは知的障害のほかに障害はありますか。( S A )



知的障害以外の障害がある人は48.1%、知的障害以外の障害がない人は49.5%となっている。

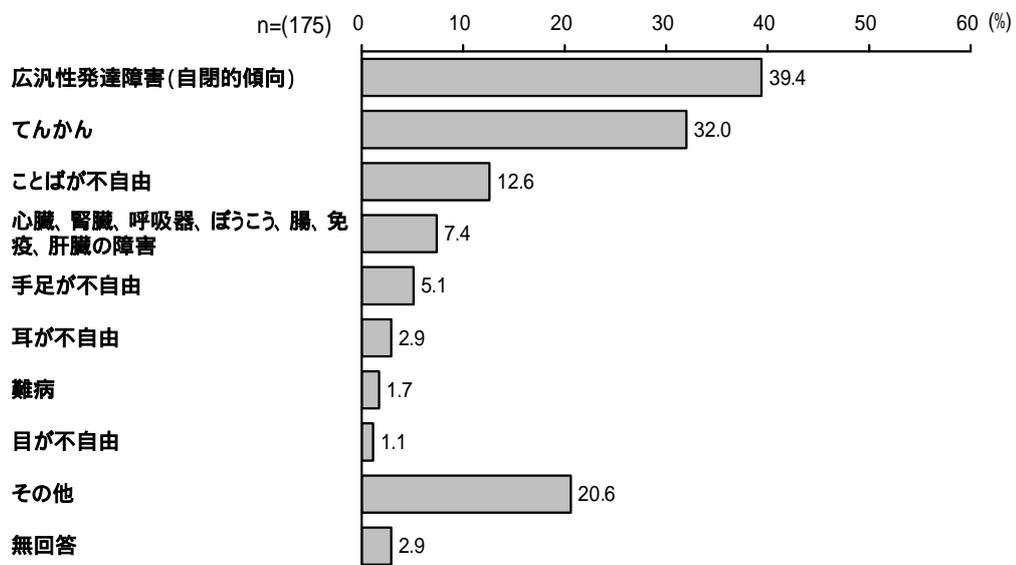
【療育手帳の種類別】

	調査数 (n)	ある	なし	無回答
上段：件数 下段：%				
全体	364 100.0	175 48.1	180 49.5	9 2.5
療育手帳Aを持っている	156 100.0	88 56.4	66 42.3	2 1.3
療育手帳Bを持っている	202 100.0	85 42.1	112 55.4	5 2.5
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は、知的障害以外の障害がある人が56.4%となっており、療育手帳Bの人は、知的障害以外の障害がない人は55.4%とある人よりやや多い。

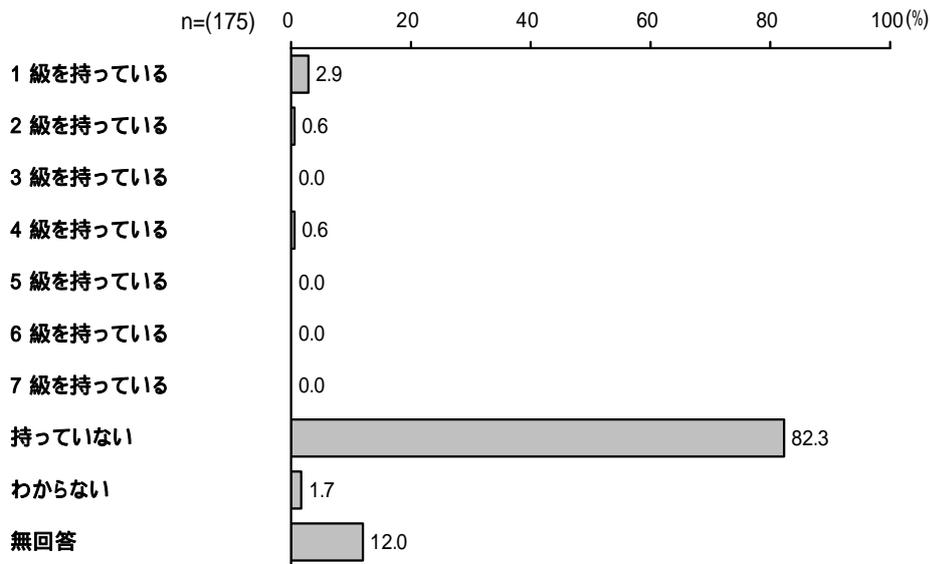
問7 6で「1 ある」を選んだ方におたずねします。

(1) あなたはどのような障害がありますか。(MA)



知的障害以外の障害の種類については、「広汎性発達障害(自閉的傾向)」(39.4%)が最も多く、以下「てんかん」(32.0%)、「ことばが不自由」(12.6%)となっている。

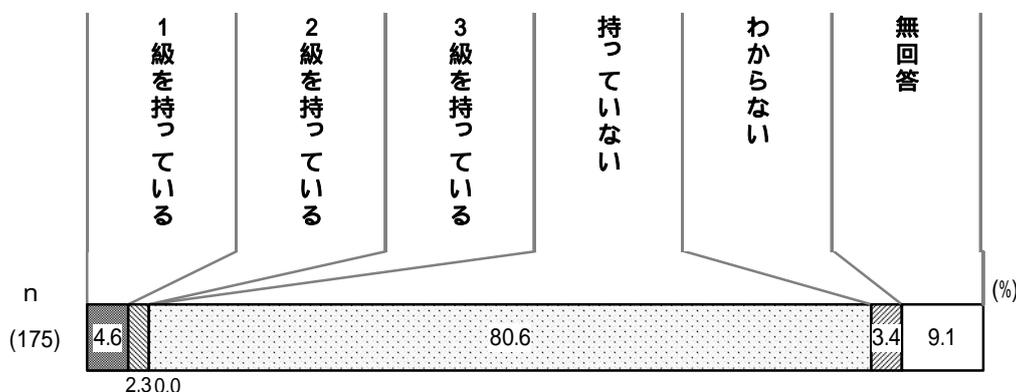
(2) 身体障害者手帳は持っていますか。( S A )



身体障害者手帳の有無については、「1 級を持っている」人は 2.9%、「2 級を持っている」、「4 級を持っている」人はともに 0.6%となっている。

一方、「持っていない」人は 82.3%を占めている。

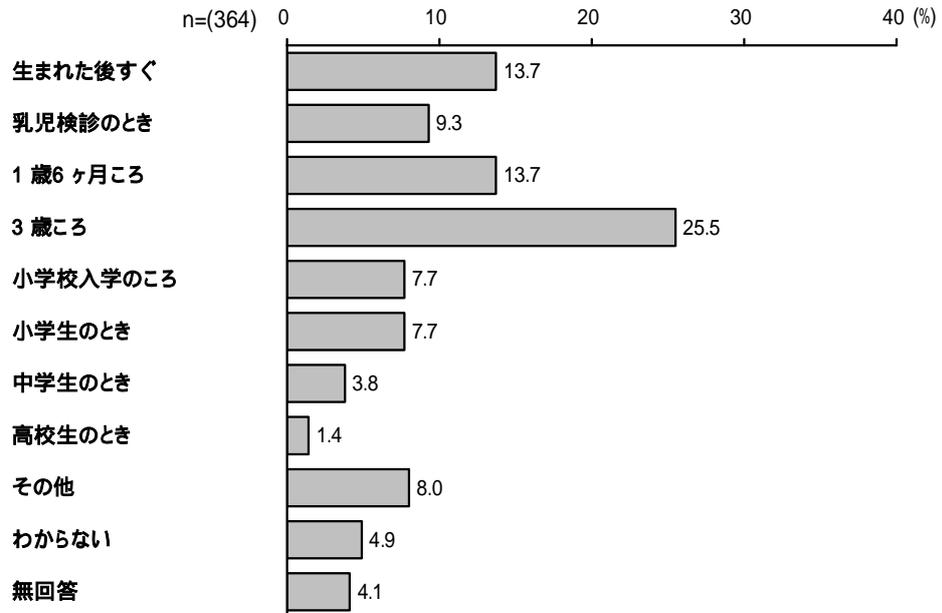
(3) 精神障害者保健福祉手帳は持っていますか。( S A )



精神障害者保健福祉手帳の有無については、「1 級を持っている」人は 4.6%、「2 級を持っている」人は 2.3%となっている。

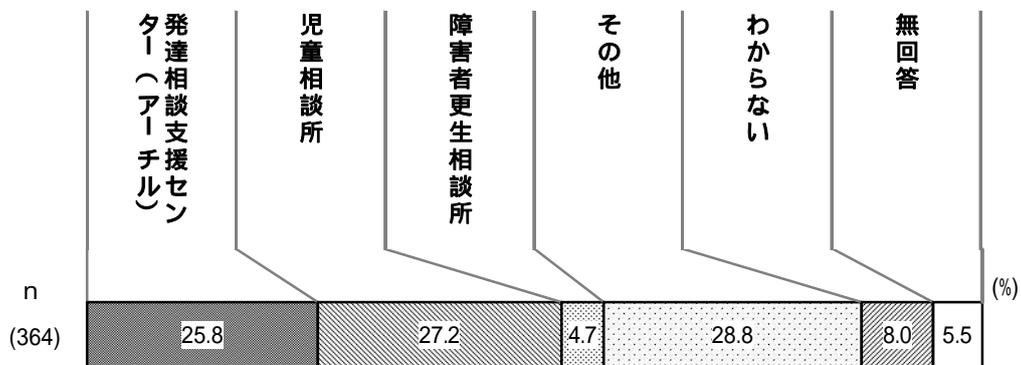
一方、「持っていない」人は 80.6%を占めている。

問8 あなたは障害があるといわれたのはいつごろですか。( S A )



障害があるといわれた時期については、「3歳ころ」(25.5%)が最も多く、以下「生まれた後すぐ」、「1歳6ヶ月ころ」(ともに13.7%)、「乳児検診のとき」(9.3%)、「小学校入学のころ」、「小学生のとき」(ともに7.7%)となっている。

問9 あなたは障害があるといわれたのはどこですか。( S A )

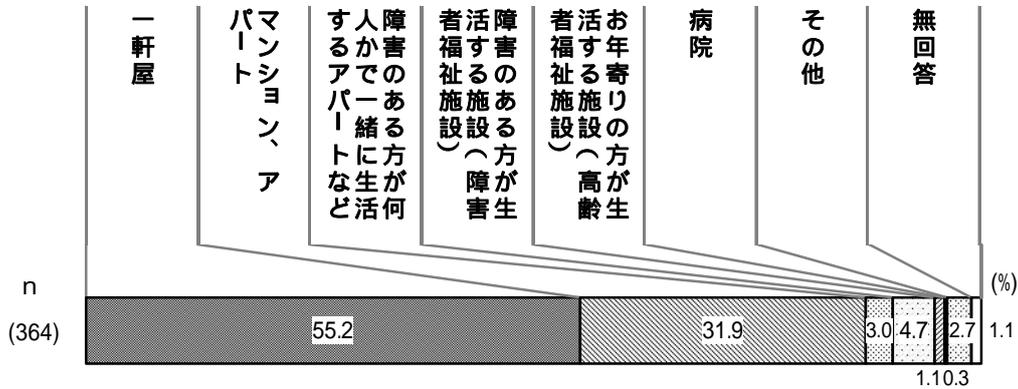


障害があるといわれた場所については、「児童相談所」(27.2%)が最も多く、以下「発達相談支援センター(アーチル)」(25.8%)、「障害者更生相談所」(4.7%)となっている。

なお、「その他」(28.8%)の内容としては、病院や保健所などがあげられている。

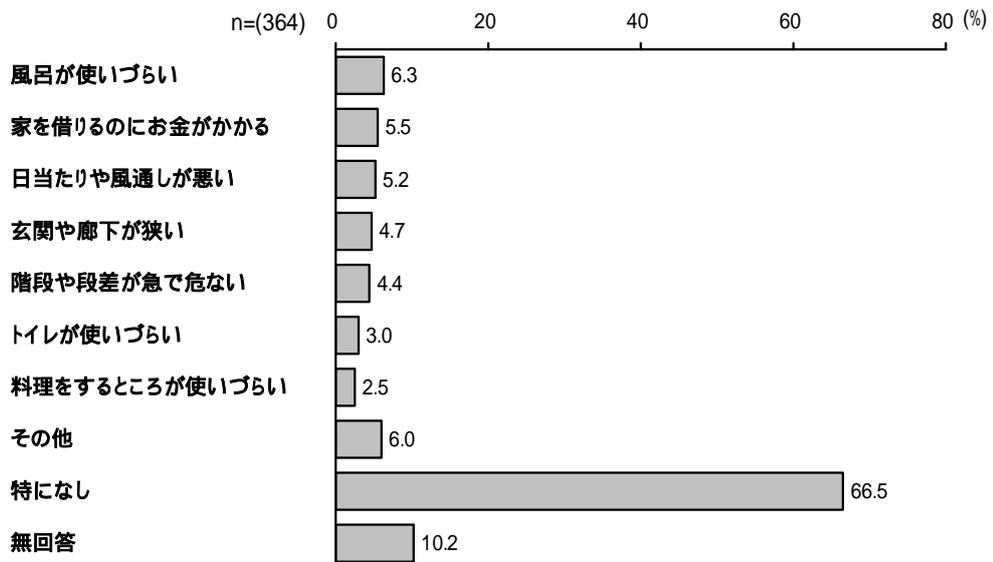
## 2 住まいのこについて

問 10 あなたの現在のお住まいは次のうちどれですか。( S A )



現在の住まいについては、「一軒屋」(55.2%)が最も多く、以下「マンション、アパート」(31.9%)、「障害のある方が生活する施設(障害者福祉施設)」(4.7%)、「障害のある方が何人かで一緒に生活するアパートなど」(3.0%)、「病院」(0.3%)となっている。

問 11 あなたがお住まいのことで現在困っていることがありますか。( M A )

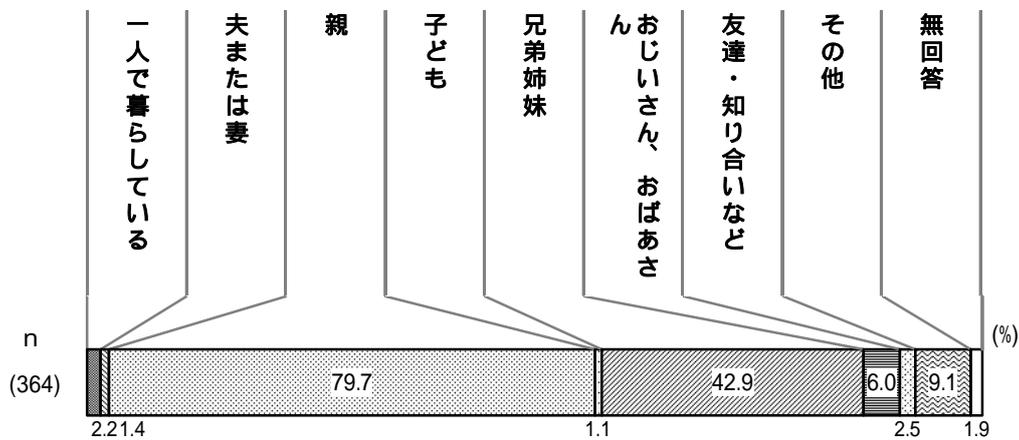


現在の住まいで困っていることについては、「風呂が使いづらい」(6.3%)が最も多く、以下「家を借りるのにお金がかかる」(5.5%)、「日当たりや風通しが悪い」(5.2%)、「玄関や廊下が狭い」(4.7%)、「階段や段差が急で危ない」(4.4%)、「トイレが使いづらい」(3.0%)、「料理をするところが使いづらい」(2.5%)となっている。

一方、「特になし」が66.5%を占めている。

問 12 あなたと一緒に住んでいる人は誰ですか。(MA)

問 13 あなたと一緒に住んでいる人は何人いますか。(数値)



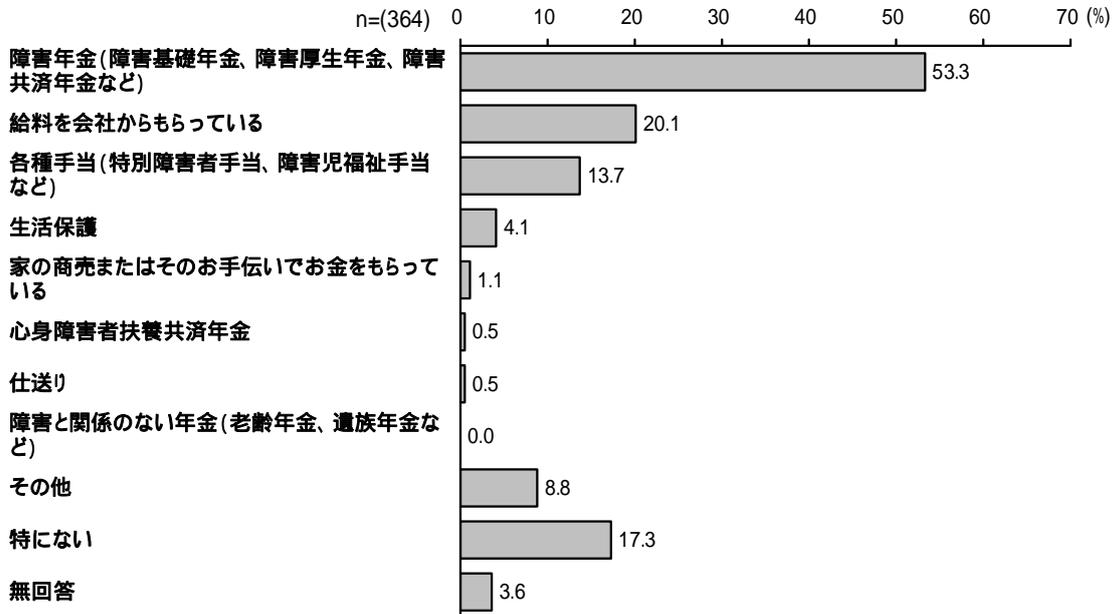
一緒に住んでいる人については、「親」(79.7%)が最も多く、以下「兄弟姉妹」(42.9%)、「おじいさん、おばあさん」(6.0%)、「友達・知り合いなど」(2.5%)、「夫または妻」(1.4%)、「子ども」(1.1%)となっている。

一方、「一人で暮らしている」は2.2%である。

一緒に住んでいる人数については、平均5.3人となっている。

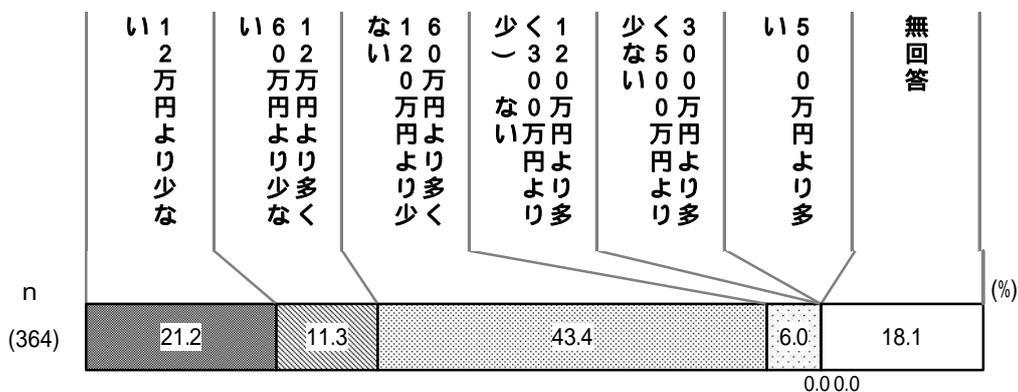
### 3 お金のことについて

問 14 あなたが得ている収入は次のうちどれですか。(MA)



得ている収入の種類については、「障害年金(障害基礎年金、障害厚生年金、障害共済年金など)」(53.3%)が最も多く、以下「給料を会社からもらっている」(20.1%)、「各種手当(特別障害者手当、障害児福祉手当など)」(13.7%)、「生活保護」(4.1%)となっている。

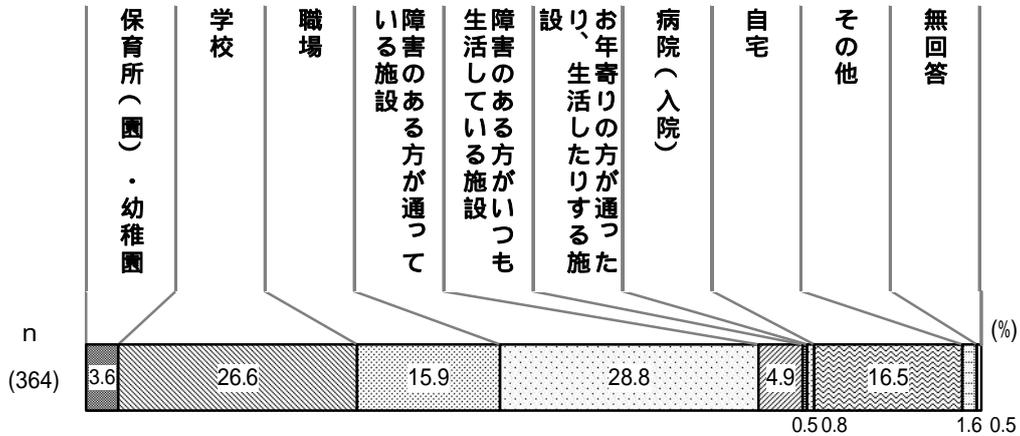
問 15 あなたは1年間にどれくらいのお金をもらっていますか。(SA)



年収については、「60万円より多く120万円より少ない」(43.4%)が最も多く、以下「12万円より少ない」(21.2%)、「12万円より多く60万円より少ない」(11.3%)となっている。

## 4 生活のことについて

問 16 平日の日中、主に過ごしている場所はどこですか。( S A )



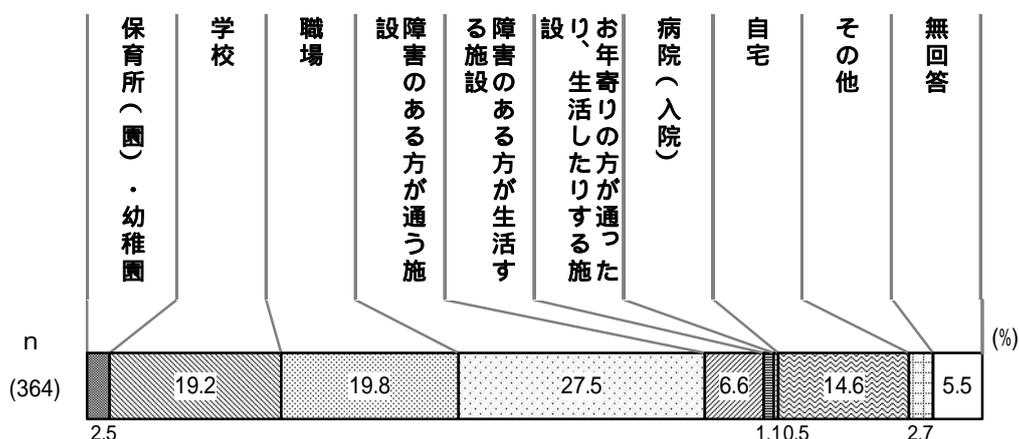
平日の日中、主に過ごしている場所については、「障害のある方が通っている施設」(28.8%)が最も多く、以下「学校」(26.6%)、「自宅」(16.5%)、「職場」(15.9%)となっている。

### 【年齢別】

	調査数 (n)	保育園 (園)	学校	職場	障害 のある 施設が	いい つも る施設 生活し 方が	し通 たり す、 生活 が	病 院 (入 院)	自 宅	そ の 他	無 回 答
全体	364	13	97	58	105	18	2	3	60	6	2
	100.0	3.6	26.6	15.9	28.8	4.9	0.5	0.8	16.5	1.6	0.5
18歳以下	123	13	93	2	6	0	0	0	9	0	0
	100.0	10.6	75.6	1.6	4.9	0.0	0.0	0.0	7.3	0.0	0.0
19～39歳	147	0	3	39	74	8	0	0	20	1	2
	100.0	0.0	2.0	26.5	50.3	5.4	0.0	0.0	13.6	0.7	1.4
40～59歳	59	0	0	13	17	7	0	2	18	2	0
	100.0	0.0	0.0	22.0	28.8	11.9	0.0	3.4	30.5	3.4	0.0
60歳以上	26	0	0	0	6	2	2	1	12	3	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	7.7	3.8	46.2	11.5	0.0

年齢別にみると、18歳以下では「学校」が75.6%を占めている。19～39歳では「障害のある方が通っている施設」が50.3%、「職場」が26.5%となっている。また、年齢が高くなるにしたがって「自宅」で過ごしている人が多くなっている。

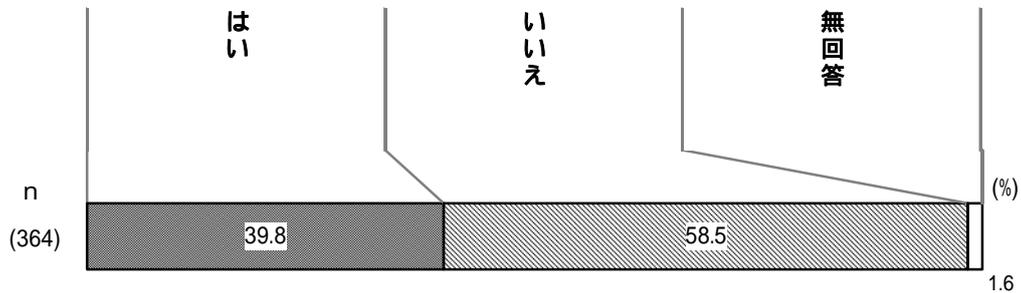
問 17 これから先は、日中どこで過ごしたいですか。( S A )



平日の日中、今後、主に過ごしたいと思う場所については、「障害のある方が通う施設」(27.5%) が最も多く、以下「職場」(19.8%) 「学校」(19.2%) 「自宅」(14.6%) となっている。

## 5 仕事のことについて

問 18 あなたは仕事をしていますか。( S A )



仕事の有無については、仕事を「している」人は39.8%となっている。  
一方、仕事を「していない」人は58.5%と、「している」人を上回っている。

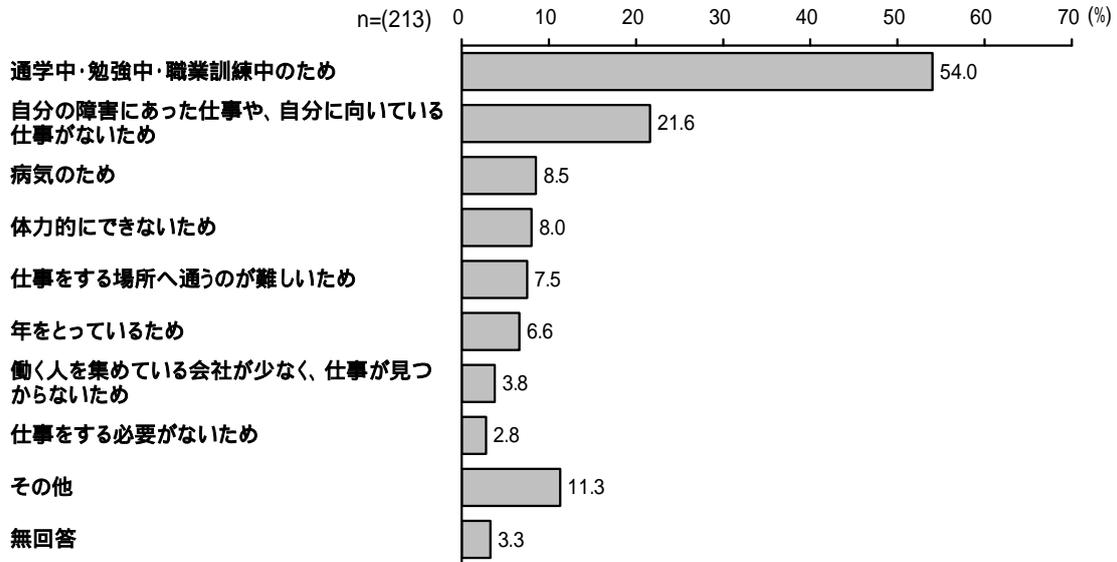
### 【年齢別】

	調査数 (n)	はい	いいえ	無回答
全体	364 100.0	145 39.8	213 58.5	6 1.6
18歳以下	123 100.0	2 1.6	121 98.4	0 0.0
19～39歳	147 100.0	98 66.7	46 31.3	3 2.0
40～59歳	59 100.0	33 55.9	24 40.7	2 3.4
60歳以上	26 100.0	6 23.1	20 76.9	0 0.0

年齢別にみると、19～59歳では仕事を「している」人が5割以上となっている。一方、18歳以下と60歳以上では仕事を「していない」人が7割以上を占めている。

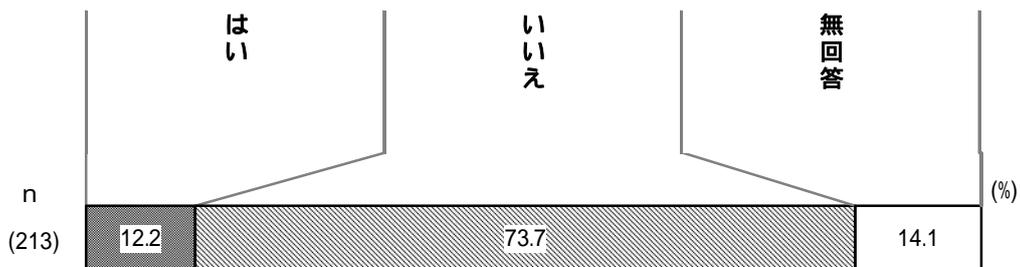
問 19 18で「2 いいえ（仕事をしていない）」を選んだ方におたずねします。

(1) 仕事をしていない理由は何ですか。(MA)



仕事をしていない理由については、「通学中・勉強中・職業訓練中のため」(54.0%)が最も多く、以下「自分の障害にあった仕事や、自分に向いている仕事がないため」(21.6%)、「病気のため」(8.5%)、「体力的にできないため」(8.0%)、「仕事をする場所へ通うのが難しいため」(7.5%)、「年をとっているため」(6.6%)となっている。

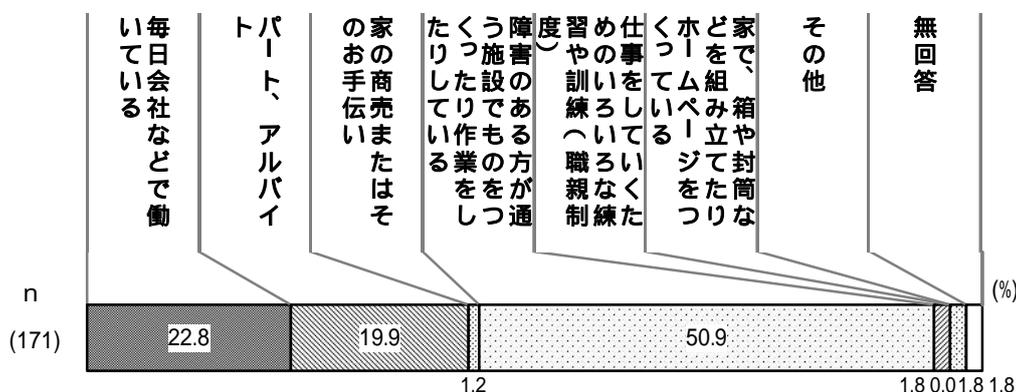
(2) いままで仕事をしていたことがありますか。(SA)



今までの仕事の経験については、仕事をした経験がある人は12.2%にとどまっており、一方の仕事をした経験がない人が73.7%を占めている。

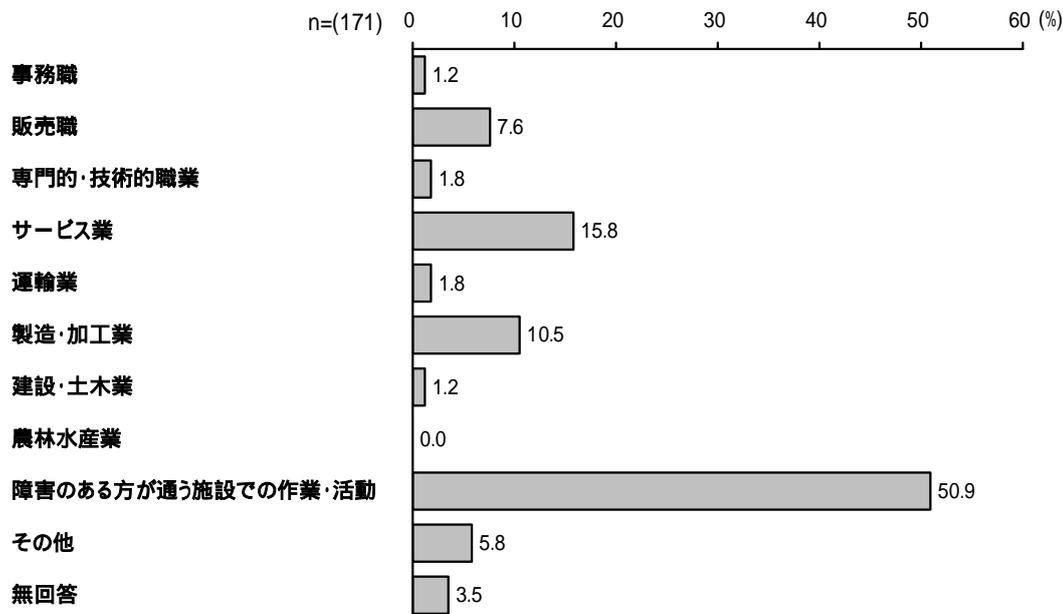
問 20 18で「1 はい(仕事をしている)」および19の(2)において「1 はい(いままでに仕事をしてきた)」を選んだ方におたずねします。

(1) どのような形で仕事をしていますか(していましたか)(SA)



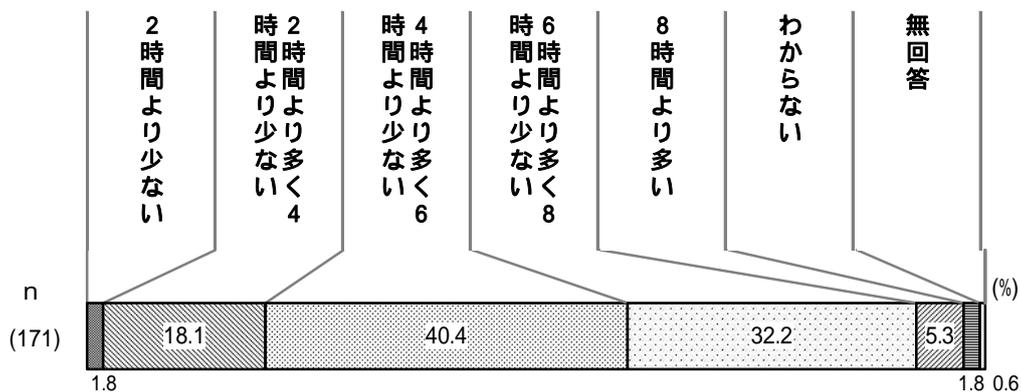
就いている仕事の種類については、「障害のある方が通う施設でものをつくったり作業をしたりしている」(50.9%)が最も多く、以下「毎日会社などで働いている」(22.8%)、「パート、アルバイト」(19.9%)となっている。

(2) どのような内容の仕事をしていますか(していましたか)(SA)



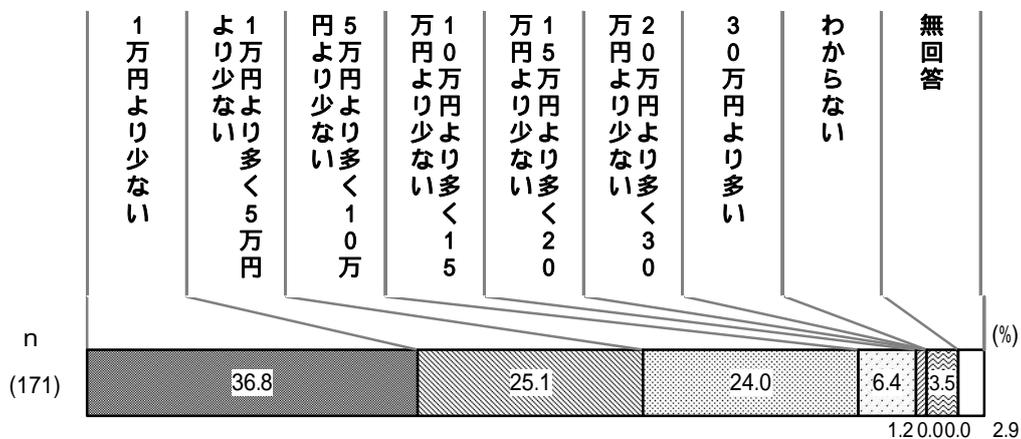
就いている仕事の内容については、「障害のある方が通う施設での作業・活動」が50.9%を占めており、以下「サービス業」(15.8%)、「製造・加工業」(10.5%)、「販売職」(7.6%)となっている。

(3) 1日何時間くらい、仕事をしていますか(仕事をしましたか)。(SA)



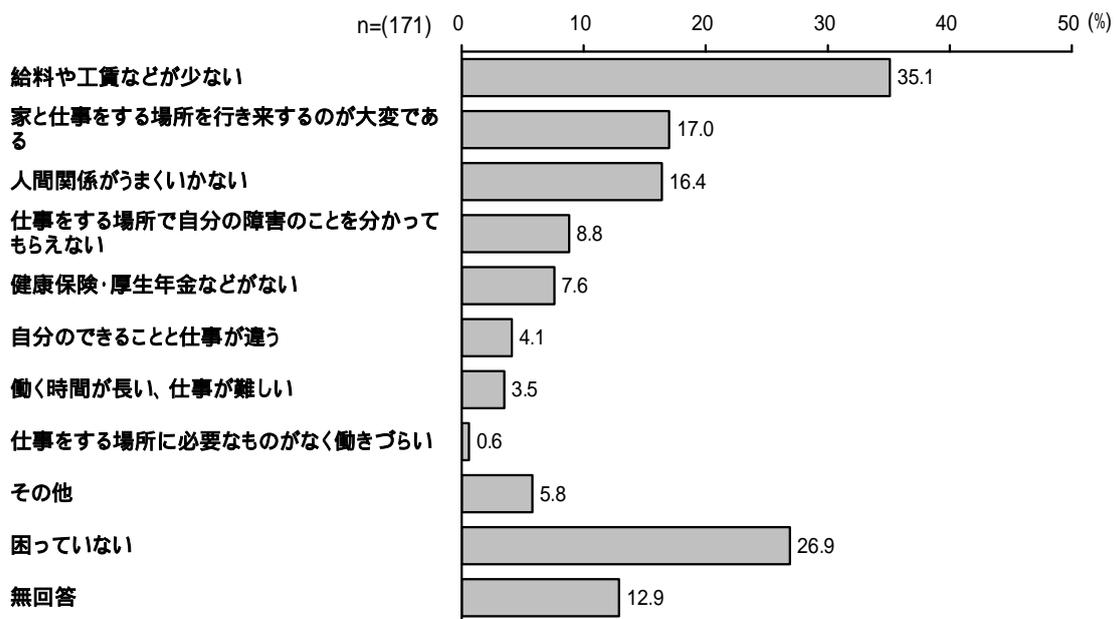
1日あたりの仕事時間については、「4時間より多く6時間より少ない」(40.4%)が最も多く、以下「6時間より多く8時間より少ない」(32.2%)、「2時間より多く4時間より少ない」(18.1%)となっている。

(4) 1ヶ月の給料や工賃などはどのくらいですか(でしたか)。(SA)



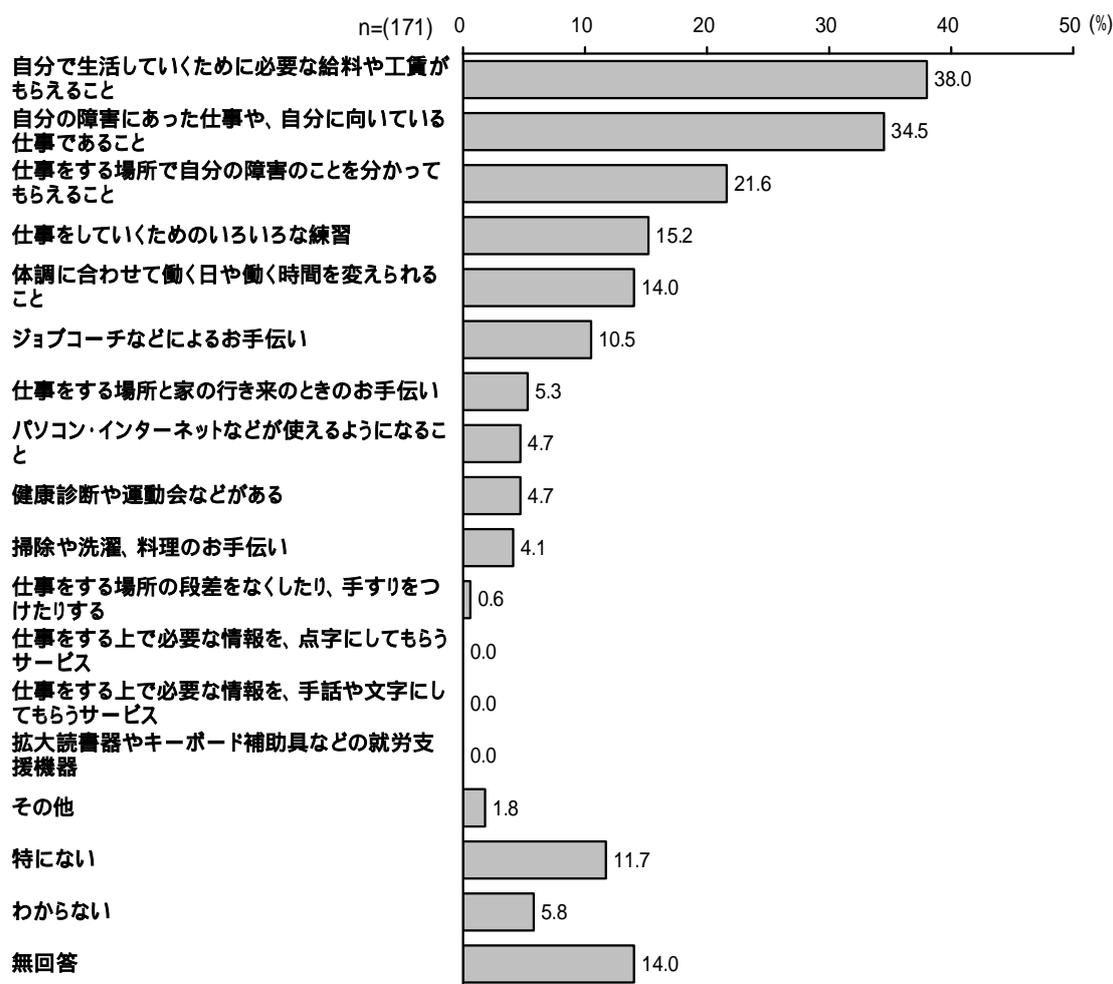
仕事による月収については、「1万円より少ない」(36.8%)が最も多く、以下「1万円より多く5万円より少ない」(25.1%)、「5万円より多く10万円より少ない」(24.0%)となっている。

(5) 仕事をして困ったことは何ですか。(MA)



仕事をしている上での悩みや不満については、「給料や工賃などが少ない」(35.1%)が最も多く、以下「家と仕事をする場所を行き来するのが大変である」(17.0%)、「人間関係がうまくいかない」(16.4%)となっている。

(6) 仕事を続ける、または仕事をもらうためには何が必要ですか。(MA)



仕事を続ける(就職する)ために必要なことについては、「自分で生活していくために必要な給料や工賃がもらえること」(38.0%)が最も多く、以下「自分の障害にあった仕事や、自分に向いている仕事であること」(34.5%)、「仕事をする場所で自分の障害のことを分かってもらえること」(21.6%)、「仕事をしていくためのいろいろな練習」(15.2%)、「体調に合わせて働く日や働く時間を変えられること」(14.0%)、「ジョブコーチなどによるお手伝い」(10.5%)となっている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	が自分で必要な給料や賃	めらえらる生活していく賃	る仕事であること	自分の障害にあつた仕事や自分に向いている仕事	ての障害の場所を分かつ	仕事をしたい練習	仕事をしたい練習	や働く時間を短く変えたい	体調に合わせた働く日	ジョブコーチなどによるお手伝い	いき来のお手伝	仕事をする場所と家の	うになること	パソコン・インターネットが使えるよ	が健康診断や運動会など	手伝	掃除や洗濯、料理のお	をつけたりする	仕事をする場所の段差	らうサードビス	仕事をしたい練習
全体	171 100.0	65 38.0	59 34.5	37 21.6	26 15.2	24 14.0	18 10.5	9 5.3	8 4.7	7 4.1	1 0.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18歳以下	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
19～39歳	110 100.0	44 40.0	41 37.3	23 20.9	21 19.1	12 10.9	13 11.8	5 4.5	5 4.5	4 3.6	4 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～59歳	43 100.0	16 37.2	11 25.6	11 25.6	5 11.6	6 14.0	5 11.6	2 4.7	3 7.0	4 9.3	3 7.0	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
60歳以上	10 100.0	2 20.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

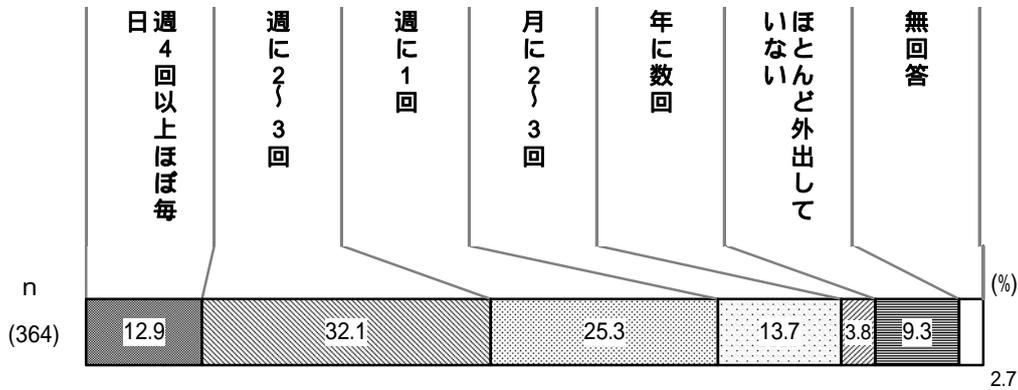
上段：件数 下段：%	し情仕事を、手話や文字に	援補機器	拡大読書器やキーボード	その他	特にな	わから	無回
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.8	20 11.7	10 5.8	24 14.0	
18歳以下	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
19～39歳	0 0.0	0 0.0	2 1.8	13 11.8	6 5.5	12 10.9	
40～59歳	0 0.0	0 0.0	1 2.3	5 11.6	3 7.0	9 20.9	
60歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	

年齢別にみると、「自分の障害にあつた仕事や、自分に向いている仕事であること」、「仕事をする場所自分の障害のことを分かってもらえること」では19～59歳で他の年代に比べやや多くなっており、また、「仕事をしていくためのいろいろな練習」でも19～39歳で多くなっている。

## 6 社会参加のことについて

問 21 仕事に行く、学校に行く、病院に行く、施設に行くこと以外で、どの程度外出していますか。

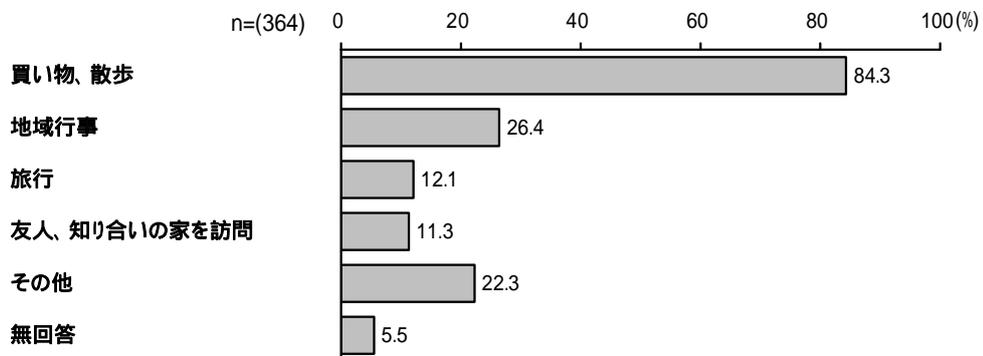
( S A )



外出頻度（通勤、通学、通院、通所を除く）については、「週に2~3回」（32.1%）が最も多く、以下「週に1回」（25.3%）、「月に2~3回」（13.7%）、「週4回以上ほぼ毎日」（12.9%）、「年に数回」（3.8%）となっている。

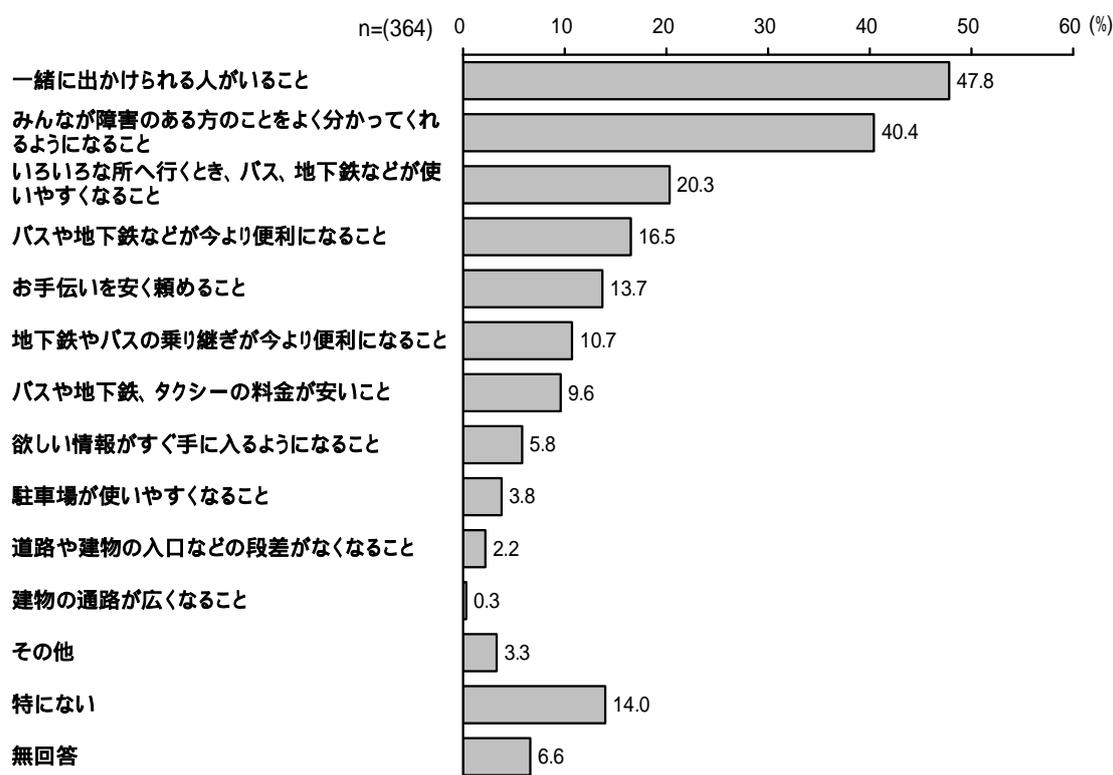
一方、「ほとんど外出していない」は9.3%となっている。

問 22 あなたの外出の主な目的は何ですか。( M A )



外出の主な目的（通勤、通学、通院、通所を除く）については、「買い物、散歩」（84.3%）が最も多く、以下「地域行事」（26.4%）、「旅行」（12.1%）、「友人、知り合いの家を訪問」（11.3%）となっている。

問 23 あなたはどのようなことがあれば外出しやすくなりますか。( M A )



より外出しやすくなるために必要なことについては、「一緒に出かけられる人がいること」(47.8%) が最も多く、以下「みんなが障害のある方のことをよく分かってくれるようになること」(40.4%)、「いろいろな所へ行くとき、バス、地下鉄などが使いやすくなること」(20.3%)、「バスや地下鉄などが今より便利になること」(16.5%)、「お手伝いを安く頼めること」(13.7%)となっている。

【年齢別】

	調査数（n）	一緒に出かけられる人がいること	みんなが障害のある方であることをよく分かってくれるようになること	地下鉄などの使いやすくなること	バスや地下鉄などが今より便利になること	お手伝いを安く頼めること	地下鉄やバスの乗り継ぎが今より便利になること	バスや地下鉄、タクシーの料金が安いこと	欲しい情報がすぐ手に入るようになること	駐車場が使いやすくなること	道路や建物の入口などの段差がなくなること	建物の通路が広くなること	その他	特にない	無回答
上段：件数 下段：%															
全体	364 100.0	174 47.8	147 40.4	74 20.3	60 16.5	50 13.7	39 10.7	35 9.6	21 5.8	14 3.8	8 2.2	1 0.3	12 3.3	51 14.0	24 6.6
18歳以下	123 100.0	74 60.2	63 51.2	28 22.8	20 16.3	23 18.7	12 9.8	17 13.8	10 8.1	5 4.1	3 2.4	1 0.8	6 4.9	7 5.7	6 4.9
19～39歳	147 100.0	62 42.2	61 41.5	30 20.4	24 16.3	21 14.3	20 13.6	13 8.8	7 4.8	7 4.8	2 1.4	0 0.0	4 2.7	27 18.4	5 3.4
40～59歳	59 100.0	24 40.7	15 25.4	11 18.6	14 23.7	4 6.8	6 10.2	4 6.8	3 5.1	2 3.4	1 1.7	0 0.0	2 3.4	11 18.6	5 8.5
60歳以上	26 100.0	9 34.6	5 19.2	5 19.2	1 3.8	2 7.7	1 3.8	1 3.8	1 3.8	0 0.0	2 7.7	0 0.0	0 0.0	5 19.2	6 23.1

年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって「一緒に出かけられる人がいること」、「みんなが障害のある方であることをよく分かってくれるようになること」、「お手伝いを安く頼めること」で多くなり、特に「一緒に出かけられる人がいること」では18歳以下で60.2%と他の年代に比べ多くなっている。「バスや地下鉄などが今より便利になること」では40～59歳でやや多くなっている。

問 24 22 において「4 地域行事」を選んだ方におたずねします。

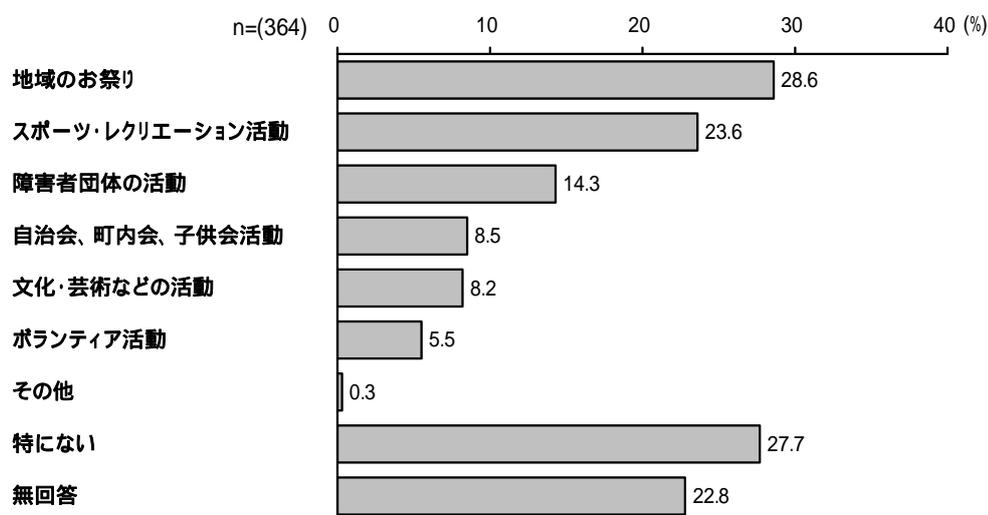
どのような行事に参加しましたか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	地域のお祭り	障害者団体の活動	自治会、町内会、子供会活動	スポーツ・レクリエーション活動	文化・芸術などの活動	ボランティア活動	その他	無回答
96	60	32	26	22	6	3	8	0
100.0	62.5	33.3	27.1	22.9	6.3	3.1	8.3	0.0

参加したことがある地域行事については、「地域のお祭り」(60件)が最も多く、以下「障害者団体の活動」(32件)、「自治会、町内会、子供会活動」(26件)、「スポーツ・レクリエーション活動」(22件)となっている。

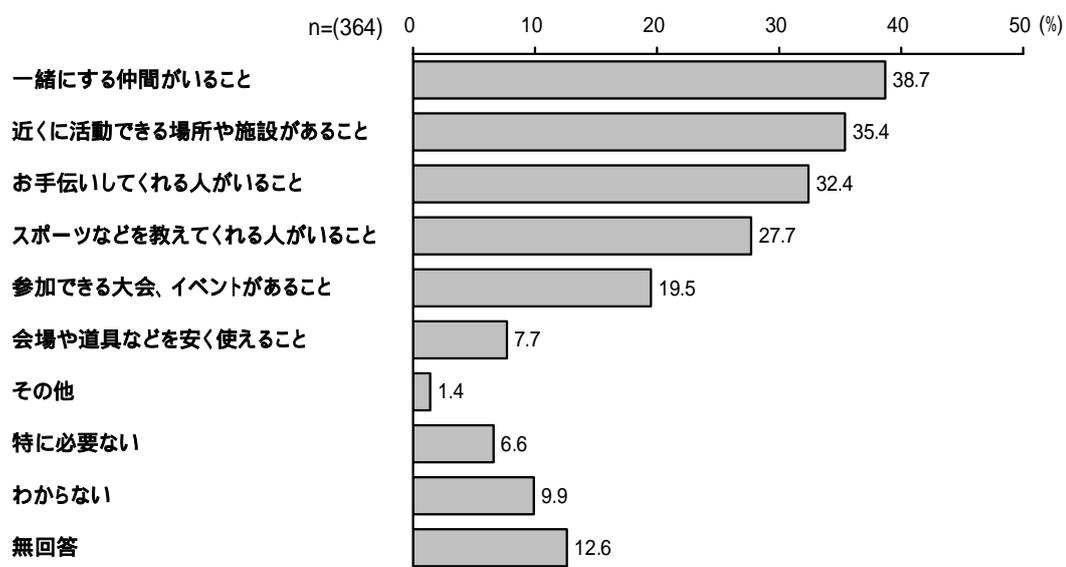
問 25 あなたが今後参加したい地域行事は何ですか。(MA)



今後参加したい地域活動については、「地域のお祭り」(28.6%)が最も多く、以下「スポーツ・レクリエーション活動」(23.6%)、「障害者団体の活動」(14.3%)となっている。

一方、「特にない」は27.7%となっている。

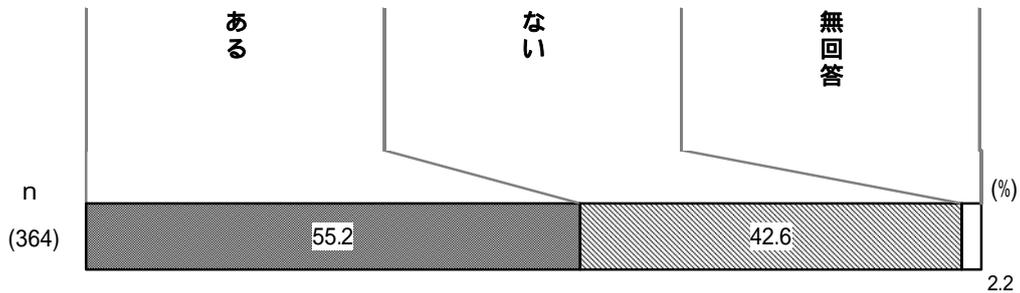
問 26 どのようなことがあればスポーツや娯楽をより楽しむことができますか。(MA)



スポーツや娯楽をより楽しむために必要なことについては、「一緒にする仲間がいること」(38.7%)が最も多く、以下「近くに活動できる場所や施設があること」(35.4%)、「お手伝いしてくれる人がいること」(32.4%)、「スポーツなどを教えてくれる人がいること」(27.7%)となっている。

## 7 福祉サービスのことについて

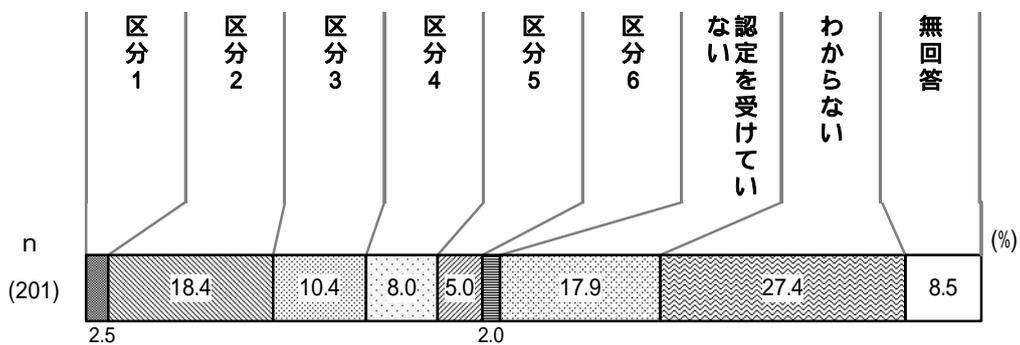
問 27 障害者の福祉サービスを利用したことがありますか。( S A )



障害者の福祉サービスを利用したことが「ある」人は55.2%と、「ない」(42.6%)人をやや上回っている。

問 28 27で「1 ある(福祉サービスを利用したことがある)」を選んだ方におたずねします。

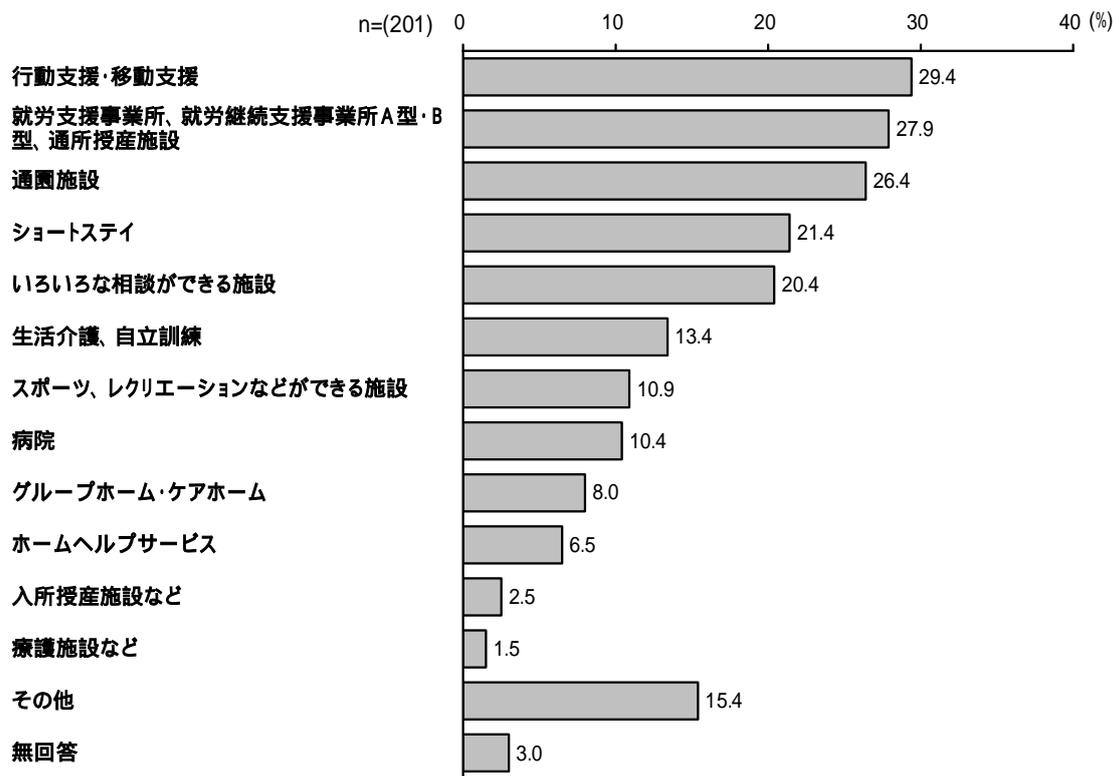
(1) あなたはサービスを利用するための、障害程度区分認定を受けていますか。( S A )



サービスを利用するための障害程度認定区分の有無については、「区分2」(18.4%)が最も多く、以下「区分3」(10.4%)、「区分4」(8.0%)、「区分5」(5.0%)、「区分1」(2.5%)、「区分6」(2.0%)となっている。

一方、「認定を受けていない」人は17.9%、「わからない」人は27.4%となっている。

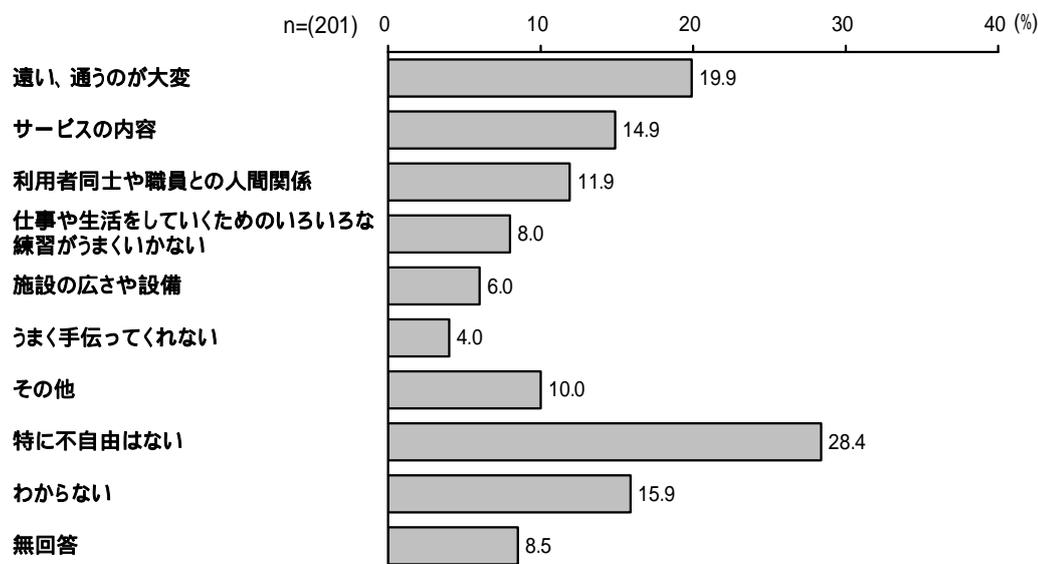
(2) 利用したことがある福祉サービスは何ですか。(MA)



これまでに利用した福祉サービスについては、「行動支援・移動支援」(29.4%)が最も多く、以下「就労支援事業所、就労継続支援事業所A型・B型、通所授産施設」(27.9%)、「通園施設」(26.4%)、「ショートステイ」(21.4%)、「いろいろな相談ができる施設」(20.4%)となっている。

(3) 福祉サービスを利用するにあたって不自由していること(困っていること)は何ですか。

(MA)



福祉サービスを利用するにあたって不自由していることについては、「遠い、通うのが大変」(19.9%)が最も多く、以下「サービスの内容」(14.9%)、「利用者同士や職員との人間関係」(11.9%)となっている。

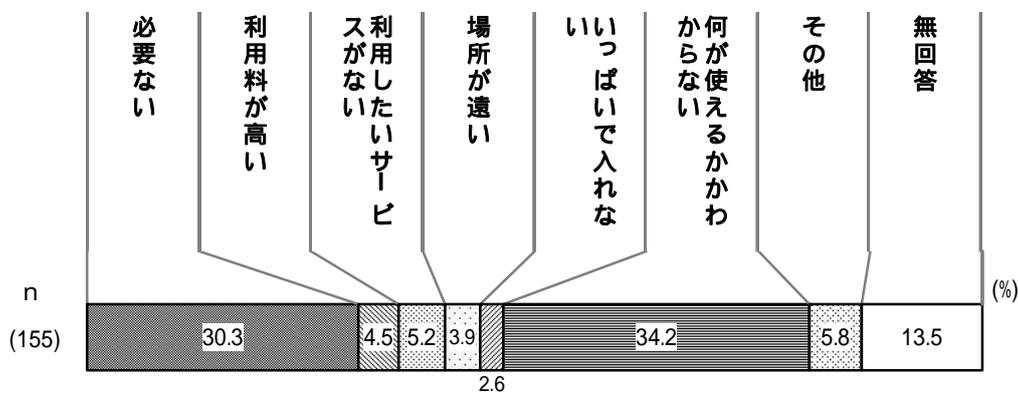
一方、「特に不自由はない」は28.4%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	遠い、 通うのが 大変	サー ビスの 内容	間 利用者 関係 者 同 士 や 職 員 と の 人	ま め く の い い や か る か な い し た ま に な し て い く た ま に う た ま い な い	仕 事 や 生 活 を し て い く た ま に な し て い く た ま に う た ま い な い	施 設 の 広 さ や 設 備	う ま く 手 伝 っ て く れ な い	そ の 他	特 に 不 自 由 は な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	201 100.0	40 19.9	30 14.9	24 11.9	16 8.0	12 6.0	8 4.0	20 10.0	57 28.4	32 15.9	17 8.5	
18歳以下	75 100.0	19 25.3	14 18.7	4 5.3	2 2.7	6 8.0	3 4.0	14 18.7	24 32.0	8 10.7	2 2.7	
19～39歳	81 100.0	14 17.3	14 17.3	15 18.5	8 9.9	5 6.2	3 3.7	5 6.2	21 25.9	13 16.0	8 9.9	
40～59歳	28 100.0	5 17.9	1 3.6	4 14.3	5 17.9	1 3.6	1 3.6	1 3.6	6 21.4	6 21.4	5 17.9	
60歳以上	14 100.0	2 14.3	1 7.1	1 7.1	1 7.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0	5 35.7	5 35.7	0 0.0	

年齢別にみると、「遠い、通うのが大変」では18歳以下で、「利用者同士や職員との人間関係」では19～39歳で他の年代に比べやや多くなっており、また、「サービスの内容」でも18～39歳でやや多い。

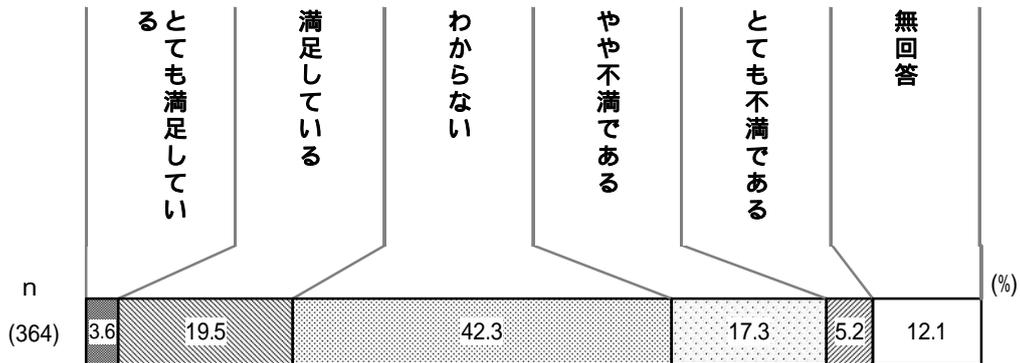
問 29 27で「2 ない(福祉サービスを利用した事がない)」を選んだ方におたずねします。  
 利用したことがない理由は何ですか。( S A )



福祉サービスを利用しない理由については、「何が使えるかわからない」(34.2%)が最も多くなっている。

一方、「必要ない」人もやや多く 30.3%となっている。

問 30 現在、あなたは障害者の福祉サービスに満足していますか。( S A )



障害者の福祉サービスの満足度については、「とても満足している」(3.6%)、「満足している」(19.5%)を合わせた《満足している》人は23.1%となっている。

一方、「やや不満である」(17.3%)、「とても不満である」(5.2%)を合わせた《不満である》人は22.5%となっており、「わからない」人が42.3%と多い。

【療育手帳の種類別】

	調査数 (n)	とても満足している	満足している	わからない	やや不満である	とても不満である	無回答
上段：件数 下段：%							
全体	364 100.0	13 3.6	71 19.5	154 42.3	63 17.3	19 5.2	44 12.1
療育手帳Aを持っている	156 100.0	3 1.9	36 23.1	48 30.8	35 22.4	11 7.1	23 14.7
療育手帳Bを持っている	202 100.0	10 5.0	35 17.3	102 50.5	28 13.9	8 4.0	19 9.4
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は《不満である》人が29.5%と、療育手帳Bの人(17.9%)をやや上回っている。

一方、療育手帳Bの人は「わからない」人が約半数と、療育手帳Aの人より多い。

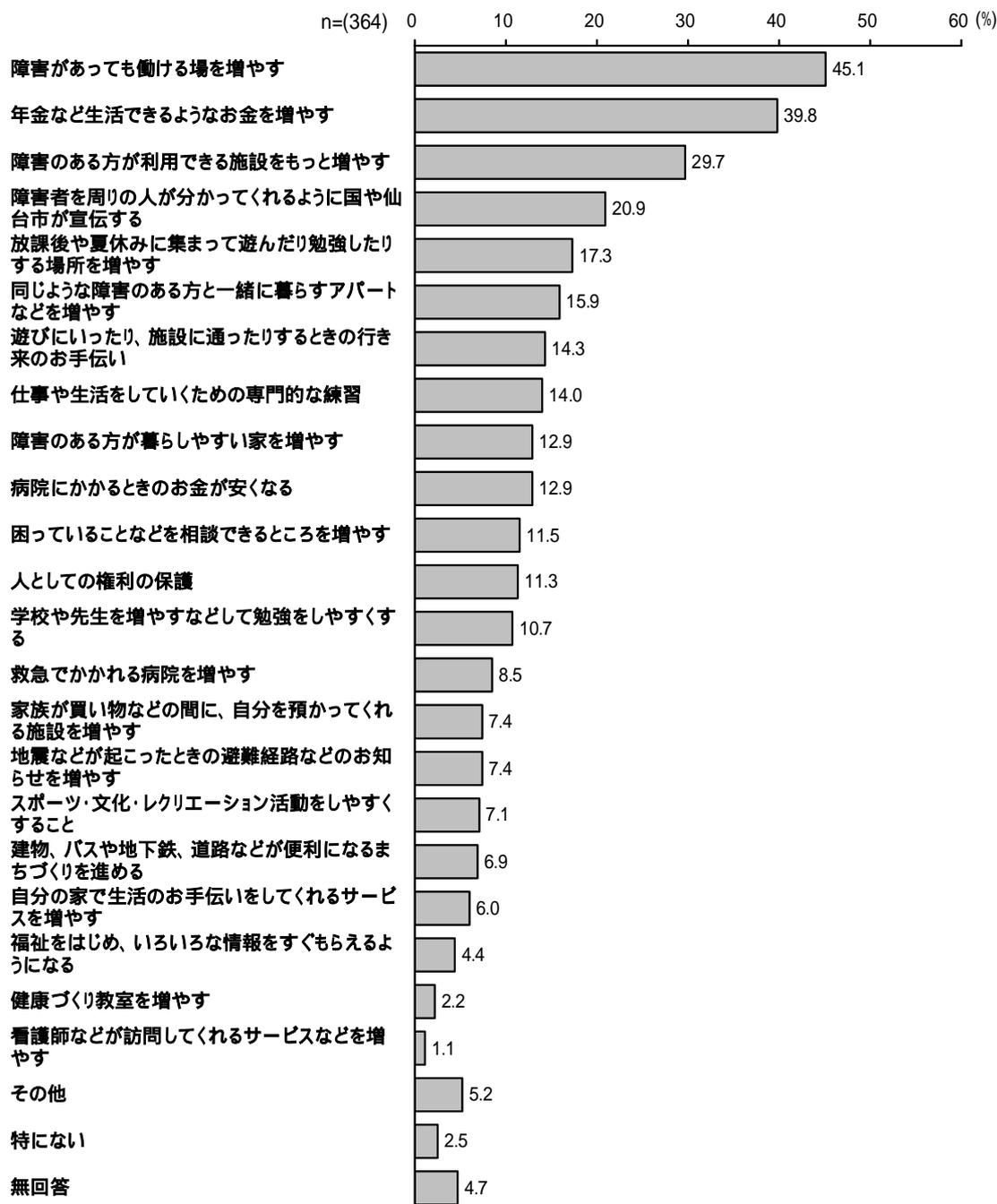
問 31 30 で「4 やや不満である」または「5 とても不満である」を選択した方におたずねします。特にどのような福祉サービスに不満を感じていますか。( S A )

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	ホームヘルプサービス	生活介護、自立訓練	ショートステイ	行動支援・移動支援	療護施設など	入所授産施設など	就労支援事業所、就労継続支援事業所A型・B型、通所授産施設	グループホーム・ケアホーム	通園施設	病院	施設 いろいろな相談ができる	スポーツ、レクリエーションなどができる施設	その他	無回答
82 100.0	2 2.4	2 2.4	7 8.5	13 15.9	1 1.2	4 4.9	14 17.1	9 11.0	3 3.7	5 6.1	8 9.8	1 1.2	11 13.4	2 2.4

特に不満を感じる福祉サービスについては、「就労支援事業所、就労継続支援事業所A型・B型、通所授産施設」(14件)が最も多く、以下「行動支援・移動支援」(13件)、「グループホーム・ケアホーム」(9件)、「いろいろな相談ができる施設」(8件)、「ショートステイ」(7件)となっている。

問 32 あなたが今後、国や仙台市などにしてもらいたいことは何ですか。(MA)



今後、充実してほしい施策については、「障害があっても働ける場を増やす」(45.1%)が最も多く、以下「年金など生活できるようなお金を増やす」(39.8%)、「障害のある方が利用できる施設をもっと増やす」(29.7%)、「障害者を周りの人が分かってくれるように国や仙台市が宣伝する」(20.9%)となっている。

【年齢別】

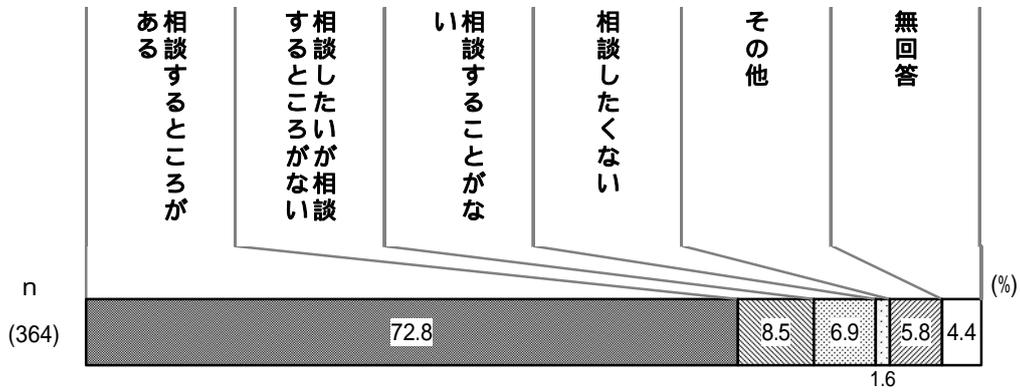
調査数 (n) 上段：件数 下段：%	障害があつても働ける場を増やす	年金など生活できるようなお金を増やす	障害のある方が利用できる施設をもっと増やす	障害者を周りが分かってもらえるように国や仙台市が宣伝する	放課後や夏休みに集まって遊んだり勉強する場所を増やす	同じような障害のある方と一緒に暮らすアパートなどを増やす	遊びにいたり、施設に通つたりするときの行き来のお手伝い	仕事や生活をしていくための専門的な練習	障害のある方が暮らしやすい家を増やす	病院にかかるときのお金が安くなる	困つていることなどを相談できるところを増やす	人としての権利の保護
全体 364 100.0	164 45.1	145 39.8	108 29.7	76 20.9	63 17.3	58 15.9	52 14.3	51 14.0	47 12.9	47 12.9	42 11.5	41 11.3
18歳以下 123 100.0	76 61.8	38 30.9	32 26.0	28 22.8	59 48.0	12 9.8	25 20.3	31 25.2	5 4.1	12 9.8	13 10.6	12 9.8
19～39歳 147 100.0	64 43.5	71 48.3	48 32.7	28 19.0	4 2.7	36 24.5	19 12.9	16 10.9	30 20.4	13 8.8	19 12.9	20 13.6
40～59歳 59 100.0	19 32.2	26 44.1	21 35.6	13 22.0	0 0.0	6 10.2	5 7.7	4 6.8	10 16.9	18 30.5	5 8.5	8 13.6
60歳以上 26 100.0	4 15.4	9 34.6	5 19.2	4 15.4	0 0.0	4 15.4	2 7.7	0 0.0	2 7.7	3 11.5	4 15.4	1 3.8

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	学校や先生を増やすなどして勉強をしやすくする	救急でかかれる病院を増やす	家族が買物などの間に自分預かつてくれる施設を増やす	地震などの起ることを知らせる経路などをお知らせする	スポーツ・文化・レクリエーション活動をする	道路、バスや地下鉄、まちづくりを便利にする	建物、バスや地下鉄、まちづくりを便利にする	伝いの家を生活のお手助けをする	自分の家での生活のサポートをする	福祉情報はじめ、いろいろな情報をもいろいろにする	健康づくり教室を増やす	看護師などが訪問して増やす	その他	特にない	無回答
全体 39 10.7	31 8.5	27 7.4	27 7.4	26 7.1	25 6.9	22 6.0	22 6.0	16 4.4	8 2.2	4 1.1	19 5.2	9 2.5	17 4.7		
18歳以下 37 30.1	7 5.7	12 9.8	5 4.1	10 8.1	6 4.9	1 0.8	5 4.1	2 1.6	0 0.0	11 8.9	0 0.0	4 3.3			
19～39歳 1 0.7	15 10.2	12 8.2	13 8.8	12 8.2	12 8.2	13 8.8	7 4.8	4 2.7	0 0.0	4 2.7	3 2.0	6 4.1			
40～59歳 0 0.0	7 11.9	3 5.1	6 10.2	3 5.1	3 5.1	5 8.5	2 3.4	2 3.4	1 1.7	2 3.4	2 3.4	3 5.1			
60歳以上 0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 11.5	2 7.7	0 0.0	0 0.0	3 11.5	2 7.7	4 15.4	3 11.5			

年齢別にみると、「障害があつても働ける場を増やす」、「遊びにいたり、施設に通つたりするときの行き来のお手伝い」では年齢が低くなるにしたがって多くなっている。また、18歳以下では「放課後や夏休みに集まって遊んだり勉強したりする場所を増やす」、「仕事や生活をしていくための専門的な練習」、「学校や先生を増やすなどして勉強をしやすくする」で他の年代より多くなっている。19～59歳では「年金など生活できるようなお金を増やす」、「障害のある方が利用できる施設をもっと増やす」でやや多く、また、19～39歳では「同じような障害のある方と一緒に暮らすアパートなどを増やす」、「障害のある方が暮らしやすい家を増やす」でやや多くなっている。40～59歳では「病院にかかるときのお金が安くなる」で他の年代に比べ多い。

## 8 相談のことについて

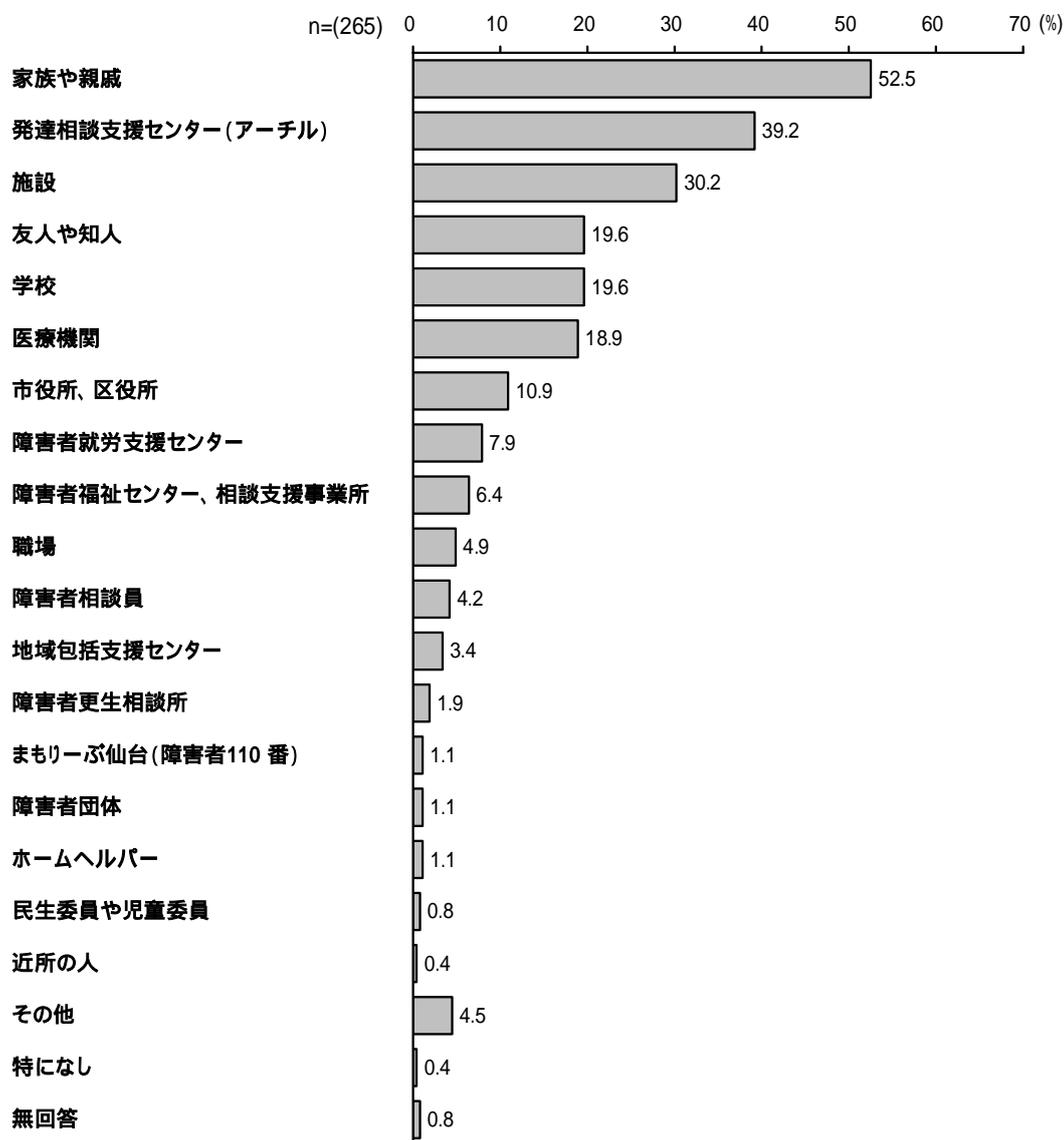
問 33 困ったときの相談はどうしますか。( S A )



困ったときの相談先の有無については、「相談するところがある」が72.8%を占めている。一方、「相談したいが相談するところがない」は8.5%となっている。

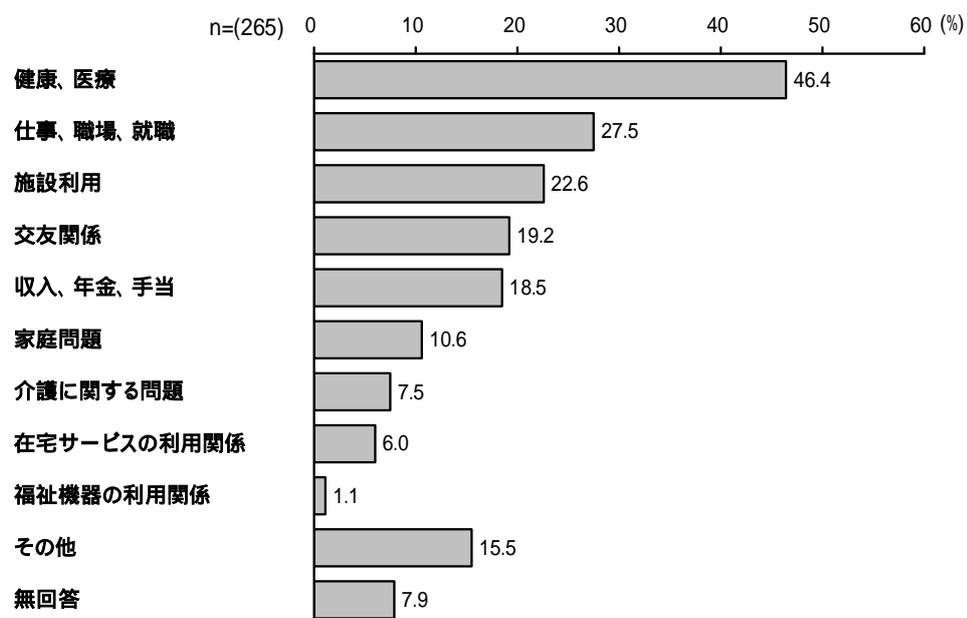
問 34 33 において「1 相談するところがある」を選択した方におたずねします。

(1) 相談するところはどちらですか。(MA)



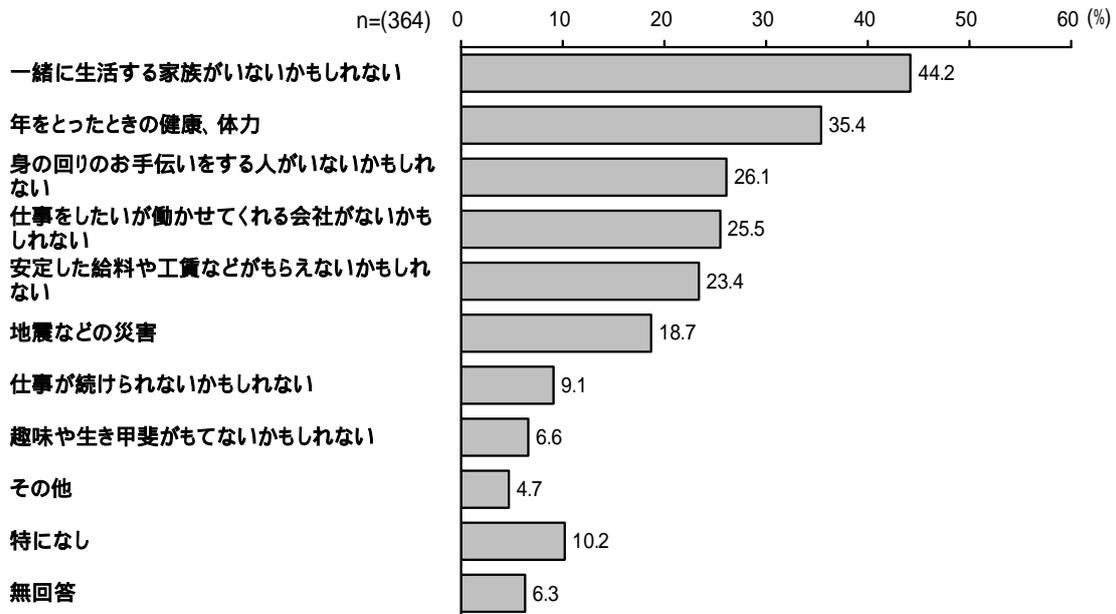
困ったときの相談相手については、「家族や親戚」(52.5%)が最も多く、以下「発達相談支援センター(アーチル)」(39.2%)、「施設」(30.2%)、「友人や知人」、「学校」(ともに19.6%)、「医療機関」(18.9%)となっている。

(2) 主に相談していることは(したいこと)何ですか。(MA)



相談している内容については、「健康、医療」(46.4%)が最も多く、以下「仕事、職場、就職」(27.5%)、「施設利用」(22.6%)、「交友関係」(19.2%)、「収入、年金、手当」(18.5%)となっている。

問 35 これらのことで心配なことは何ですか。( MA )



今後、不安と感じていることについては、「一緒に生活する家族がいないかもしれない」(44.2%) が最も多く、以下「年をとったときの健康、体力」(35.4%)、「身の回りのお手伝いをする人がいないかもしれない」(26.1%)、「仕事をしたいが働かせてくれる会社がないかもしれない」(25.5%)、「安定した給料や工賃などがもらえないかもしれない」(23.4%)となっている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	一緒に生活する家族がいない	年をとったときの健康、体力	身の回りのない手かもし	仕事をしたいが働かせられない	安定した給料や工賃などもらえない	地震などの災害	仕事が続けられない	趣味や生き甲斐がない	その他	特になし	無回答
全体	364 100.0	161 44.2	129 35.4	95 26.1	93 25.5	85 23.4	68 18.7	33 9.1	24 6.6	17 4.7	37 10.2	23 6.3
18歳以下	123 100.0	47 38.2	21 17.1	27 22.0	63 51.2	44 35.8	23 18.7	8 6.5	8 6.5	12 9.8	10 8.1	8 6.5
19～39歳	147 100.0	78 53.1	57 38.8	44 29.9	24 16.3	27 18.4	28 19.0	18 12.2	11 7.5	4 2.7	16 10.9	6 4.1
40～59歳	59 100.0	28 47.5	34 57.6	19 32.2	5 8.5	9 15.3	11 18.6	5 8.5	3 5.1	1 1.7	6 10.2	3 5.1
60歳以上	26 100.0	6 23.1	12 46.2	5 19.2	1 3.8	2 7.7	4 15.4	1 3.8	2 7.7	0 0.0	5 19.2	4 15.4

年齢別にみると、「仕事をしたいが働かせてくれる会社がないかもしれない」、「安定した給料や工賃などがもらえないかもしれない」では年齢が低くなるにしたがって多くなり、特に「仕事をしたいが働かせてくれる会社がないかもしれない」では18歳以下で約5割と、他の年代を大きく上回っている。「一緒に生活する家族がいないかもしれない」では19～59歳で、「年をとったときの健康、体力」では40歳以上で多くなっている。

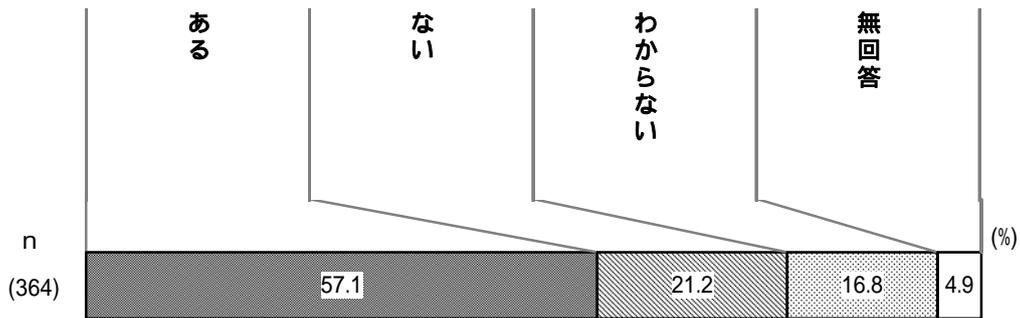
【仕事の有無別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	一緒に生活する家族がいない	年をとったときの健康、体力	身の回りのない手かもし	仕事をしたいが働かせられない	安定した給料や工賃などもらえない	地震などの災害	仕事が続けられない	趣味や生き甲斐がない	その他	特になし	無回答
全体	364 100.0	161 44.2	129 35.4	95 26.1	93 25.5	85 23.4	68 18.7	33 9.1	24 6.6	17 4.7	37 10.2	23 6.3
はい	145 100.0	68 46.9	62 42.8	39 26.9	18 12.4	33 22.8	26 17.9	20 13.8	8 5.5	3 2.1	16 11.0	7 4.8
いいえ	213 100.0	92 43.2	65 30.5	56 26.3	75 35.2	52 24.4	40 18.8	13 6.1	16 7.5	14 6.6	21 9.9	13 6.1

仕事の有無別にみると、仕事をしている人は「年をとったときの健康、体力」、「仕事が続けられないかもしれない」で仕事をしていない人をやや上回っている。

一方、仕事をしていない人は「仕事をしたいが働かせてくれる会社がないかもしれない」が仕事をしている人に比べ多くなっている。

問 36 障害のことで差別されたり、いやな思いなどをしたことがありますか。( S A )



障害を理由に差別を受けたり、いやな思いをしたことが「ある」人は57.1%となっており、「ない」(21.2%)人を上回っている。

なお、「わからない」人は16.8%である。

【年齢別】

	調査数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	364 100.0	208 57.1	77 21.2	61 16.8	18 4.9
18歳以下	123 100.0	76 61.8	27 22.0	16 13.0	4 3.3
19～39歳	147 100.0	89 60.5	28 19.0	23 15.6	7 4.8
40～59歳	59 100.0	31 52.5	16 27.1	9 15.3	3 5.1
60歳以上	26 100.0	5 19.2	5 19.2	12 46.2	4 15.4

年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって差別を受けたり、いやな思いをしたことを経験した人は多くなり、39歳以下では差別を受けたり、いやな思いをしたことが「ある」人は約6割となっている。60歳以上では「ある」人は約2割にとどまり、「わからない」人が4割半ばとなっている。

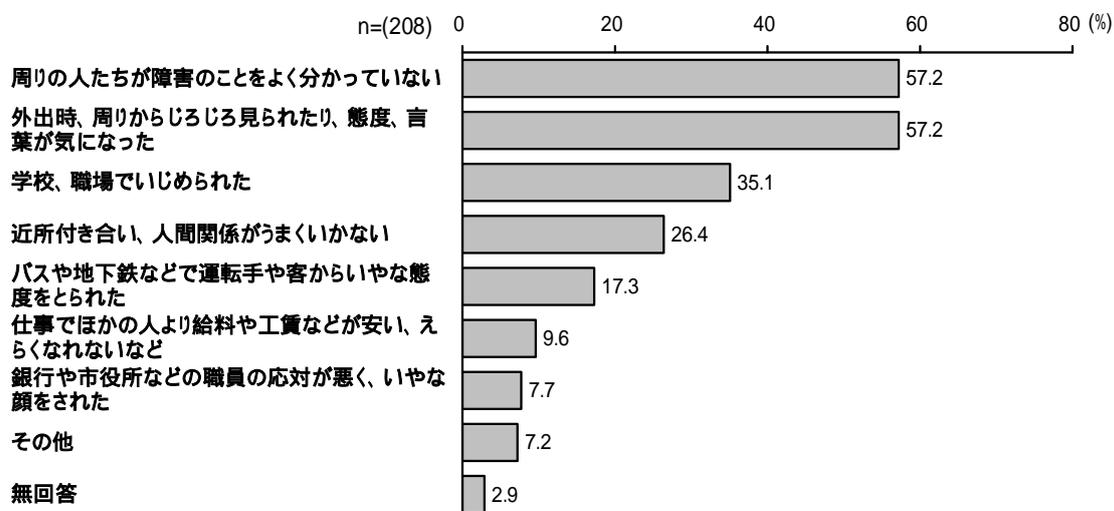
【性別】

	調査数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	364 100.0	208 57.1	77 21.2	61 16.8	18 4.9
男	243 100.0	145 59.7	51 21.0	38 15.6	9 3.7
女	119 100.0	61 51.3	26 21.8	23 19.3	9 7.6

性別にみると、男性は差別を受けたり、いやな思いをしたことが「ある」人が約6割と、女性をやや上回っている。

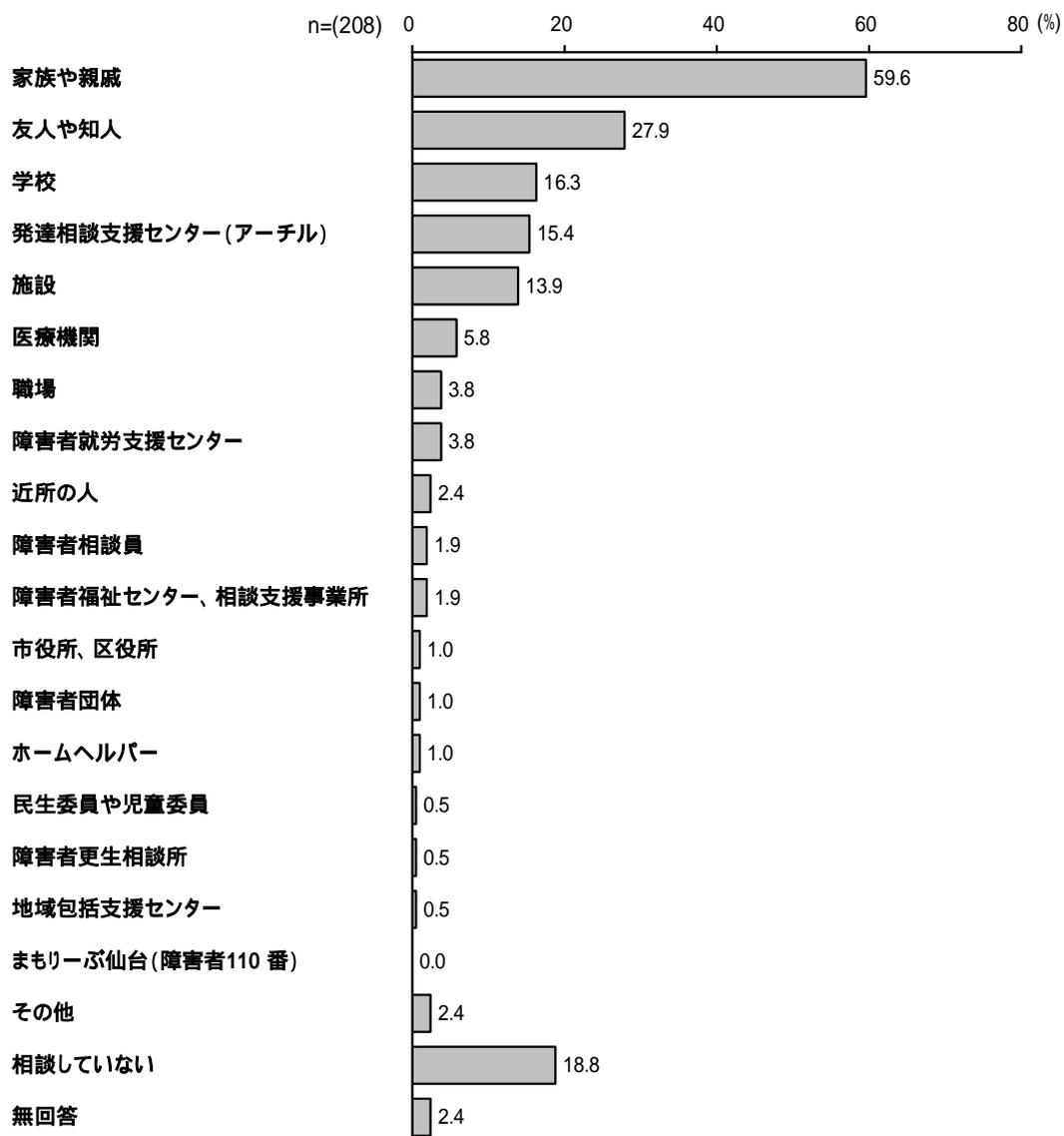
問 37 36で「1 ある」を選んだ方におたずねします。

(1) あなたは、どのような差別をされたり、いやな思いをしましたか。(MA)



差別やいやな思いを受けた内容については、「周りの人たちが障害のことをよく分かっていない」、「外出時、周りからじろじろ見られたり、態度、言葉が気になった」(ともに 57.2%) が最も多く、以下「学校、職場でいじめられた」(35.1%)、「近所付き合い、人間関係がうまくいかない」(26.4%) となっている。

(2) 差別を受けたりいやな思いを受けたときに誰かに相談しましたか。(MA)



差別いやな思いを受けたときの相談先については、「家族や親戚」(59.6%)が最も多く、以下「友人や知人」(27.9%)、「学校」(16.3%)、「発達相談支援センター(アーチル)」(15.4%)、「施設」(13.9%)となっている。

一方、「相談していない」人は18.8%となっている。

(3)(2)で「20 相談していない」を選択した方におたずねします。

相談していない理由は何ですか。( S A )

(上段：件数、下段：%)

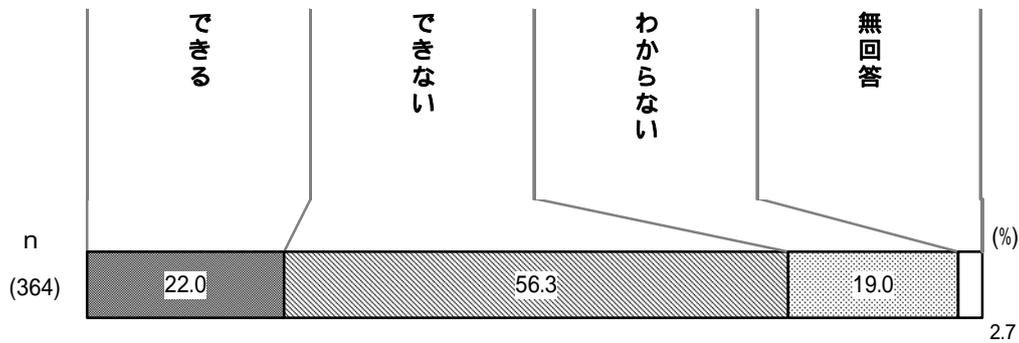
調査数 (n)	相 談 し な い	相 談 す る こ と は あ る が 、 こ ろ は な い	相 談 し た く な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
39 100.0	8 20.5	6 15.4	10 25.6	13 33.3	2 5.1	

差別やいやな思いを相談しない理由については、「相談することはあるが、相談をしたいと思うところはない」(8件)、「相談したくない」(6件)となっている。

なお、「その他」(10件)の内容としては、相談しても仕方ないや相談するという考えがないなどがあげられている。

## 9 災害がおこったときのことについて

問 38 あなたは地震などの災害発生とき、一人で避難することができますか。( S A )



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、「できない」人は56.3%と、「できる」(22.0%)人を上回っている。

なお、「わからない」人は19.0%となっている。

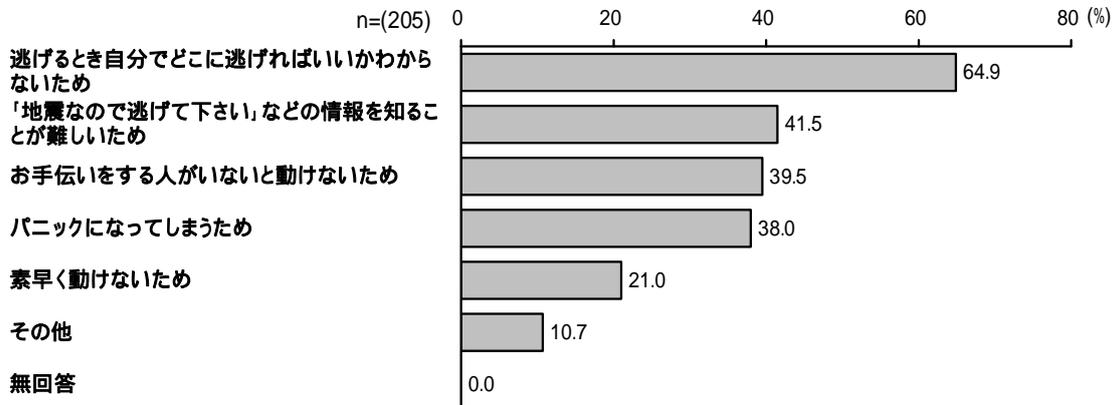
### 【療育手帳の種類別】

	調査数 (n)	できる	できない	わからない	無回答
全体	364	80	205	69	10
	100.0	22.0	56.3	19.0	2.7
療育手帳Aを持っている	156	12	129	11	4
	100.0	7.7	82.7	7.1	2.6
療育手帳Bを持っている	202	67	72	58	5
	100.0	33.2	35.6	28.7	2.5
わからない	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は「できない」人が約8割を占めており、「できる」人は1割未満にとどまっている。療育手帳Bの人は「できる」人が3割強となっているが、「わからない」人も約3割となっている。

問 39 38で「2 できない」を選んだ方におたずねします。

災害のとき一人で避難できない理由は何ですか。( M A )



災害のとき一人で避難できない理由については、「逃げるとき自分でどこに逃げればいいのかわからないため」(64.9%)が最も多く、以下「『地震なので逃げて下さい』などの情報を知ることが難しいため」(41.5%)、「お手伝いをする人がいないと動けないため」(39.5%)、「パニックになってしまうため」(38.0%)、「素早く動けないため」(21.0%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	逃げるとき自分でどこに逃げればいいのかわからないため	「地震なので逃げて下さい」などの情報を知ることが難しいため	お手伝いをする人がいないと動けないため	パニックになってしまうため	素早く動けないため	その他	無回答
全体	205	133	85	81	78	43	22	0
	100.0	64.9	41.5	39.5	38.0	21.0	10.7	0.0
18歳以下	85	51	36	31	32	11	14	0
	100.0	60.0	42.4	36.5	37.6	12.9	16.5	0.0
19～39歳	75	53	36	33	24	13	7	0
	100.0	70.7	48.0	44.0	32.0	17.3	9.3	0.0
40～59歳	24	14	8	8	13	11	0	0
	100.0	58.3	33.3	33.3	54.2	45.8	0.0	0.0
60歳以上	15	11	3	6	7	7	0	0
	100.0	73.3	20.0	40.0	46.7	46.7	0.0	0.0

年齢別にみると、18～39歳では「『地震なので逃げて下さい』などの情報を知ることが難しいため」が4割以上と他の年代に比べ多くなっており、一方、40歳以上では「パニックになってしまうため」、「素早く動けないため」が39歳以下の年代に比べ多い。

【療育手帳の種類別】

上段：件数 下段：%	調査数 (n)	い逃げ逃 たげれる ばとき い自分 わで から こに	「地震な ので逃 げて下 さい」 などの 情報 を知 る下 さ	いお と手 伝い をす る人 が い な い	たパ ニ ツ ク に な っ て し ま う	素 早 く 動 け な い た め	そ の 他	無 回 答
全体	205 100.0	133 64.9	85 41.5	81 39.5	78 38.0	43 21.0	22 10.7	0 0.0
療育手帳Aを持っている	129 100.0	84 65.1	63 48.8	60 46.5	41 31.8	27 20.9	13 10.1	0 0.0
療育手帳Bを持っている	72 100.0	48 66.7	21 29.2	19 26.4	36 50.0	14 19.4	7 9.7	0 0.0
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は「『地震なので逃げて下さい』などの情報を知ることが難しいため」、「お手伝いをする人がいないと動けないため」が療育手帳Bの人に比べ多く、療育手帳Bの人は「パニックになってしまうため」で療育手帳Aの人を上回っている。

## 10 知的障害者本人の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は103件であった。  
以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

現在のところでは、ショートステイや通所施設に行くことも親が送迎しています。自宅から送迎サービスがあればと思います。これから先は、一般の病院へ行くことも困難なので、病院へ行く時の付き添いや障がいをわかってくれる病院が増えてくれれば心強いです。最終的には親亡き後の生活に不安があります。心配や不安なことがたくさんあります。ひとつずつでも減るようお願いしたいです。

障害者自立支援法が施行されてから、4年経過したといえ、環境が良くなっている状態ではないように思います。むしろ、障がい者全体の方々が大変苦労されている所が目につきます。息子(22才)は擁護学校(現在支援学校)を卒業し、なんとか就労したのですが、会社(仕事先)の障害者の受け入れ体勢ができておらず、3年間がんばってきましたが、精神的負担が大きく、退職をし、今は就労支援事務所で仕事をしております。昨今社会の状況は、どこも厳しいにしろ、精神、身心障がい者に対しての研修、勉強は受け入れる社会ではありますが、会社でもきちんとしたことはやっていくべきだと思います。障がい者の特性を理解した上で会社の方々とのコミュニケーションも大事だと思います。受け入れる側が、障がい者にたいしての誤解偏見がないよう、仙台市や、国全体で考えていくことができ、働く場が増えていく事をのぞみます。今の状況で障害年金だけでこれから先、親から自立して生活していけるか?を考えると疑問に思えます。私たち親から見ても、我が子が自立した安心した生活やサービスが得られるよう、考えていけるよう福祉のあり方をもう一度考えてほしいものです。

知的障がい者が高齢になった時、どこに相談すればよいのか。障害課に行けば 高齢課に、高齢課に行けば 障害課にといった状態。知的障がい者が、高齢になると言うことは、身内の者も少なくなる。この時、病気になる前でも本人が安定して暮らせる施設に入れればと願ってます。この時(年金内)で納められるようにできればありがたいです。普通の高齢障がい者と一緒にされるのは知的障がい者の場合家族の者もとまどいを感じる。

施設は最近、工賃を上げるために努力しているようですが、一人一人身辺の支援はおろそかになっているように思えます。また支援員の数も足りないように思います。送迎バスは料金が高すぎると思います。一人で行動できない人には必ず、送迎が必要です。乗車証で一人で行動できる人はお金がかかりませんので、良いですが、通所の送迎には助成してもらいたいです。

通所施設に通っていますが、工賃が県の平均までいっていません。最低賃金がほしいです。職員のレベルアップと採用条件として数人の経験のある人、資格のある人、専門の勉強をしている人などを希望します。全くの素人がいきなりの支援では本人の満足、保護者の希望が得られないことが多すぎて困ります。素人の人に人生の大切な一部を託すには力不足の職員がいることはとても納得がいきません。相談事があって相談しても進歩の感じられない内容になってしまいます。そこでアーチルハローワーク支援センターなど登録しても、最後は現在通所しているところの話に戻ってしまい、相談に発展がなく、残念でなりません。

災害時、避難生活になった場合、人混みが苦手なパニックを起こしやすいため、集団の中で落ち着いて生活できるのか不安です。障がい者が落ち着いて非難生活ができるような対策をお願いしたいです。

地域も生きていくことが大切だと思いますが、やはり入所施設も必要だと思います。現在親の介護と障がいの有る子どもとの生活で日々の負担は増しております。私たちが支えている間はいいのですが、この先もっと状況が悪くなった時に、親と子のどちらを守れるのかとても不安です。地域資源もそれぞれの場によって大いに違いがあります。緊急に子どもを預ける場の確保。できれば現在通所している施設での預かりとか泊まりができなければ一番安心できると思います。でなければ家での泊まりの見守りができる方法など（施設の職員）考えていただければありがたいです。災害はいつどんな時にあうかは不明ですので、経験という意味で色々な場での訓練を増やすしかないと思います。説明を聞いても理解できない子は突発的な時はどうするのか親さえもわからないので日々不安です。

養護学校の中学部に入学。入学式のその日初めて会う先生に息子は自分から手を出し、笑いながら、手を握って、入場をしてきました。小学校時代みたこともない笑顔で「自分を受け入れてくれるところ」と感じたことを体で表してくれました。教育者として、親の良き、アドバイザーとして、すばらしい先生ばかりです。どんな障がいを持つ生徒の心をつかんでくれる頼もしい方々ばかりの学校でした。小学校のつらい思い出をばねにして中・高と支援学校で息子がすばらしく成長できて、毎日が楽しく通える学校となってくれたことがとても嬉しかったです。自分がこちよく学べる所とわかると笑顔も言葉も出て病気（発作）もある程度安定してきます。学習能力をUPさせるためには一番大切なことと今になってわかりました。同じような思いを持つ、親が多くいます。仙台市望むこととして普通小学校（中学校）の特殊教育者がもっと勉強して、支援学級で実習するなどして、子どもたちに良い影響を与える先生になってほしいです。長々とすみません…。親の思いを伝えるところがなかったので、ここに書かせていただきました。

まだ小さいので、将来の具体的なビジョンは見えていませんが、今後、その時（進路などの選択をしなければならない時）が来た時に、どこに相談するのか、どんな選択肢があるかなどが明確に分かるような情報がほしいです。

障がいを持つ子どもの母親にとっての一番の心配は親がだんだん年をとって子どもの面倒を見られなくなった時にどうしたら良いかということだと思います。子どもを残して死ぬことはできないのです。1日でも長く子どもより長生きしなければと思うのです。子どもが老後幸せに暮らせる場所があれば親も安心できると思います。

仙台市の療育がとても遅れていると思う。専門の病院を強化してほしい。支援教室の先生方への勉強会をふやしてほしい。障害に無知な先生がとても多い。

本人は自閉症です。発語がないので、自分の感じた辛いこと、悲しいこと、悩み、また、不満、不安を相手に伝えることができません。そのため、周りの人から誤解されたり、不信に思われたり。家族として、本人が不憫に思われて仕様がありません。世の中の人々が自閉症という障がいの特性を正しく理解していないことがその要因と思われます。理解を深めるような広報をお願いいたします。誰もが仲良く睦まじく暮らせる機会が早く到来されることを願っています。

夏休みにヘルパー3級の講習会に参加しました。高校を卒業したら介護の仕事をしたい思っています。ヘルパー2級の講習会を、もっと多くの人に参加できるようにして頂きたいと思います。宜しくお願いします。

支援施設の職員が足りないの、利用者だけが増えすぎて、パンクしそうです。職員を増やして、関わりをもたせてほしいです。

放課後の障がい児童デイサービスなど利用したいのに、なかなか利用できないため、困っています。療育など、取り組みたいと思っていますが、仙台では、そのような取り組みや制度は、ないのでしょ。どのような制度があるのか情報が分かりにくいので、分かりやすく広報、市報などで詳しい情報など、宣伝していただいた方がわかりやすいです。障がいを持っていることで、困ることがたくさんあり、周囲の無知で嫌な思いをすることもあります。不公平だと、感じることもあります。暮らしやすい、社会になっていくと、嬉しいですね。

大人になるまで多くの望みはありますが、最終目標として『自立』を目指しています。自立しやすい、環境として世間に対し、障がい者にもっと理解して頂き、差別のない環境をつくっていただきたいです。

地震などの災害があった時、避難場所で過ごすことを考えると障がい者用のトイレがあるのかなど設備的な不安がある。

